Copyright © 2012 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
  - 2.1. このガイドについて
  - 2.2. 前提条件
  - 2.3. 互換機能モジュールについて
  - 2.4. 利用用途に合わせてモジュールを選択する
  - 2.5. JumpUp機能の利用について
  - 2.6. 互換対応表について
- 3. 制限事項
- 4. スクリプト開発DatabaeseManagerのデータベースオプション
  - 4.1. 高速フェッチオプション
  - 4.2. プリペアドステートメントオプション
  - 4.3. Timestamp型マッピングオプション
- 5. アクセスセキュリティ
  - 5.1. アカウント情報について
  - 5.2. リスナー
  - 5.3. インポート
  - 5.4. 旧ログインURLの利用方法
  - 5.5. ショートカットURLの利用方法
  - 5.6. 旧認証モジュールの利用方法
- 6. ジョブスケジューラへの登録方法
  - 6.1. ジョブの登録
- 7. アプリケーション共通マスタ
  - 7.1. メニューについて
  - 7.2. 認可設定
  - 7.3. マスタ同期について
  - 7.4. 検索画面オプション
  - 7.5. リスナー
- 8. 共通マスタ同期仕様
  - 8.1. 基本仕様
  - 8.2. 詳細仕様
  - 8.3. 同期処理を行わないようにする
  - 8.4. テナントごとに同期処理の実施有無を設定する
- 9. ドキュメントワークフロー(BPW)
  - 9.1. メニューについて
  - 9.2. 認可設定
  - 9.3. 設定ファイルについて
  - 9.4. メールテンプレート
  - 9.5. コンテンツの配置について
  - 9.6. 全文検索（IM-ContentsSearch）
- 10. 互換TIPS
  - 10.1. AccessControllerと同等の機能を実現する
  - 10.2. intra-mart Web Platform で作成されたページを表示する
- 11. 共通マスタ拡張同期インポートI型
  - 11.1. 概要
  - 11.2. 拡張インポートについて
  - 11.3. 想定する利用パターン
  - 11.4. 使用方法
  - 11.5. 制限事項
  - 11.6. エラーメッセージ
- 12. 共通マスタ拡張同期インポートII型
  - 12.1. 概要

- 12.2. 拡張インポートについて
- 12.3. 準備
- 12.4. 実行
- 12.5. 制限事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2012-12-21	第2版　下記を追加・変更しました ▪ 「*旧ログインURLの利用方法*」を追加 ▪ 「*ショートカットURLの利用方法*」を追加 ▪ 「*旧認証モジュールの利用方法*」を追加 ▪ 「*BPWの通知メールにショートカットURLを付与する*」を追加
2013-04-01	第3版 ▪ 「*プライベートグループリスナー*」を追加
2013-10-01	第4版 ▪ 「*互換TIPS*」を追加
2014-04-01	第5版 ▪ パブリックストレージの記述を変更 (%PUBLIC_STORAGE_PATH%)
2014-08-01	第6版 ▪ 「*制限事項*」を追加
2015-04-01	第7版 ▪ 「*ドキュメントワークフロー(BPW)*」に「*全文検索（IM-ContentsSearch）*」を追加 ▪ 「*はじめに*」に新規モジュールの説明を追加 ▪ 「*共通マスタ同期仕様*」の説明を追加 ▪ 「*共通マスタ拡張同期インポートI型*」の説明を追加 ▪ 「*共通マスタ拡張同期インポートII型*」の説明を追加
2015-08-01	第8版 ▪ 「*はじめに*」にJumpUp機能の説明を追加 ▪ 「*JumpUp機能の利用について*」の説明を追加
2015-12-01	第9版 ▪ 「*テナントごとに同期処理の実施有無を設定する*」を追加 ▪ 「*はじめに*」の「利用用途に合わせてモジュールを選択する」の説明を修正 ▪ 誤植を修正
2023-04-01	第10版 ▪ 「*互換機能モジュールについて*」の説明を修正
2023-10-31	第11版 ▪ 「*互換機能モジュールについて*」の説明にカスタマーサクセスライセンス向けの Advance Edition に関する内容を追記

はじめに

項目

- このガイドについて
- 前提条件
- 互換機能モジュールについて
- 利用用途に合わせてモジュールを選択する
- JumpUp機能の利用について
- 互換対応表について

このガイドについて

このガイドでは、 intra-mart Accel Platform で互換機能を利用する場合の利用方法および注意点について解説します。

前提条件

intra-mart Web Platform v7.2.4以降からの移行を行う場合は、IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタが同期されている状態から移行をしてください。
詳しくは、移行ガイドを参照してください。

また、新規インストールで互換機能を利用する場合は、「*利用用途に合わせてモジュールを選択する*」を参照の上、必要なモジュール含めてセットアップしてください。

互換機能モジュールについて

互換機能モジュールは、いくつかの互換用APIや互換機能を提供します。
また、互換機能モジュールは、IM-Juggling 上で、アプリケーションの 1 つとして提供します。

- **Standard-Edition**
  intra-mart Accel Platform (Standard-Edition) に対して利用可能なモジュールです。
  ドキュメントワークフロー(BPW)機能が含まれません。

モジュール名	説明
互換基本機能	互換APIが含まれます。 intra-mart Web Platform v7.2.x からの移行の場合は、 「互換コンテンツ」は必要ありません。
互換コンテンツ	互換用テーブル定義と設定ファイルが含まれます。 ・ アプリケーション共通マスタ 互換基本機能を利用した新規インストールの場合は、このモジュールを選択します。 2015 Spring(Juno) から利用できます。
共通マスタ同期無効化オプション	IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタのリアルタイム同期を無効化します。 2015 Spring(Juno) からで利用できます。
アプリケーション共通マスタ管理機能	アプリケーション共通マスタの管理機能が含まれます。 「共通マスタ同期無効化オプション」が選択されている場合に利用できます。 2015 Spring(Juno) から利用できます。
JumpUp機能	BaseModule version 3.2 - 4.x の互換API が含まれます。 この機能を利用するためには、シェアードデータベース設定が必要です。 詳しくは「*JumpUp機能の利用について*」を参照してください。 2015 Summer(Karen) から利用できます。
共通マスタ拡張同期インポートI型	リアルタイム同期を行いつつ、ある条件化において、バッチによる同期を高速化します。 このモジュールを利用する場合は「共通マスタ同期無効化オプション」は選択しないでください。 詳しくは「 *共通マスタ拡張同期インポートI型*」の説明を参照してください。 2015 Spring(Juno) から利用できます。

モジュール名	説明
共通マスタ拡張同期インポートII型	リアルタイム同期を行わず、ある条件化において、バッチによる同期を高速化します。 詳しくは「*共通マスタ拡張同期インポートII型*」の説明を参照してください。 「共通マスタ同期無効化オプション」が選択されている場合に利用できます。 2015 Spring(Juno) から利用できます。

- **Advanced Edition およびカスタマーサクセスライセンス向けの Basic, Advance, Professional Edition**
  intra-mart Accel Platform (Advanced, Basic, Advance, Professional Edition) に対して利用可能なモジュールです。
  ドキュメントワークフロー(BPW)機能が含まれます。

モジュール名	説明
互換基本機能	互換APIが含まれます。 ドキュメントワークフロー(BPW)機能が含まれます intra-mart Web Platform v7.2.x からの移行の場合は、「互換コンテンツ」は必要ありません。
互換コンテンツ	互換用テーブル定義と設定ファイルが含まれます。 ・アプリケーション共通マスタ ・ドキュメントワークフロー(BPW) 互換基本機能を利用した新規インストールの場合は、このモジュールを選択します。 2015 Spring(Juno) から利用できます。
共通マスタ同期無効化オプション	IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタのリアルタイム同期を無効化します。 2015 Spring(Juno) からで利用できます。
アプリケーション共通マスタ管理機能	アプリケーション共通マスタの管理機能が含まれます。 「共通マスタ同期無効化オプション」が選択されている場合に利用できます。 2015 Spring(Juno) から利用できます。
JumpUp機能	BaseModule version 3.2 - 4.x の互換API が含まれます。 この機能を利用するためには、シェアードデータベース設定が必要です。 詳しくは「*JumpUp機能の利用について*」を参照してください。 2015 Summer(Karen) から利用できます。
共通マスタ拡張同期インポートI型	リアルタイム同期を行いつつ、ある条件化において、バッチによる同期を高速化します。 詳しくは「*共通マスタ拡張同期インポートI型*」の説明を参照してください。 このモジュールを利用する場合は「共通マスタ同期無効化オプション」は選択しないでください。 2015 Spring(Juno) から利用できます。
共通マスタ拡張同期インポートII型	リアルタイム同期を行わず、ある条件化において、バッチによる同期を高速化します。 詳しくは「*共通マスタ拡張同期インポートII型*」の説明を参照してください。 「共通マスタ同期無効化オプション」が選択されている場合に利用できます。 2015 Spring(Juno) から利用できます。

注意

- 共通マスタ拡張同期インポートI型はリアルタイム同期を行いながらの運用ですので、「共通マスタ同期無効化オプション」は選択しないでください。

利用用途に合わせてモジュールを選択する

互換機能モジュールはいくつかのモジュールに分かれており、利用用途によってモジュールを選択して運用ができます。

いくつかの運用ケースよるモジュールの選択方法について説明します。

- **intra-mart Web Platform v7.2.4以降からの移行で、共通マスタの同期を行う。**
  - 互換基本機能
  - 移行ツール（互換機能とは別のモジュールです。）
  - JumpUp機能
    （別途 BaseModule version 3.2 - 4.x の互換APIを利用したい場合のみ選択します。）

- **intra-mart Web Platform v7.2.4以降からの移行で、共通マスタの同期を行わない。**
  IM-共通マスタからアプリケーション共通マスタへの同期は行わなくてよい。
  - 互換基本機能
  - 共通マスタ同期無効化オプション
  - 移行ツール（互換機能とは別のモジュールです。）
  - アプリケーション共通マスタ管理機能
    （別途アプリケーション共通マスタの管理が行いたい場合のみ選択します。）
  - JumpUp機能
    （別途 BaseModule version 3.2 - 4.x の互換APIを利用したい場合のみ選択します。）

- **intra-mart Accel Platform の新規インストールで、共通マスタの同期を行う。**
  - 互換基本機能
  - 互換コンテンツ
  - JumpUp機能
    （別途 BaseModule version 3.2 - 4.x の互換APIを利用したい場合のみ選択します。）

- **intra-mart Accel Platform の新規インストールで、共通マスタの同期を行わない。**
  IM-共通マスタからアプリケーション共通マスタへの同期は行わなくてよい。
  - 互換基本機能
  - 互換コンテンツ
  - 共通マスタ同期無効化オプション
  - アプリケーション共通マスタ管理機能
    （別途アプリケーション共通マスタの管理が行いたい場合のみ選択します。）
  - JumpUp機能
    （別途 BaseModule version 3.2 - 4.x の互換APIを利用したい場合のみ選択します。）

JumpUp機能の利用について

JumpUp機能で提供される一部の互換APIは、シェアードデータベースを利用します。
以下の設定内容で シェアードデータベース設定 を行ってください。

接続ID	テナントIDと同じです。
リソース参照名	テナントデータベースに指定したリソース参照名と同じです。

互換対応表について

互換対応表は、intra-mart Web Platform v7.2.4で公開されているAPIおよびタグの対応状況を一覧形式で提供しています。
また、JumpUp機能で提供される互換APIも記載されています。

非推奨や削除になったAPIおよびタグに対する代替のAPIやタグが記載されています。
一部、機能の統廃合やシステムアーキテクチャの変更により代替のAPIやタグが存在しない場合があります。

互換対応表は、以下からダウンロードできます。

- 互換対応表

制限事項

互換機能を利用するにあたっての制限事項 はリリースノートに記載されています。
互換機能を利用する時には、必ずすべての制限事項を確認してください。

スクリプト開発DatabaeseManagerのデータベースオプション

スクリプト開発API DatabaeseManagerのデータベースオプションの設定場所が変更になっています。

項目

- 高速フェッチオプション
- プリペアドステートメントオプション
- Timestamp型マッピングオプション

高速フェッチオプション

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）のfetch メソッドのパフォーマンスを向上させるオプションです。

- 設定

設定ファイル	conf/parameter.xml
パラメータ名	database.fast-fetch
パラメータ値	true / false (デフォルトは true)

parameter.xmlは IM-Juggling で設定が変更できます。

```
<param>
 <param-name>database.fast-fetch</param-name>
 <param-value>true</param-value>
</param>
```

- 説明

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）のfetch メソッドで、対象DB を判別し、SQL 文を加工して対象行のみを取得することで、パフォーマンスが向上します。
また、DB より対象行のみを取得しますので、JDBC 内でのメモリリークが解消されます。（Oracle, PostgreSQL）

設定による動作は以下の通りです。

有効(true)	DB に問い合わせるSQL文を加工し、対象行のみを取得（新仕様）
無効(false)	DB に問い合わせるSQL文を加工せず、DB カーソルをスキップして対象行を取得（旧仕様）

注意

この設定を true に設定した場合、以下の制約が発生します。

select カラムで別テーブルの同じカラム名をエイリアスを利用しないで同時に取得するとSQL エラーになります。

(例) select a.name,b.name from a,b where a.id = b.id

（Oracle, Microsoft SQL Server）

コラム

intra-mart Web Platform 7.2.4での設定項目は以下の場所に存在しました。

conf/imart.xml
intra-mart/platform/service/application/database/fast-fetch タグ

プリペアドステートメントオプション

DatabaseManager（スクリプト開発モデル）のupdate およびinsert メソッドを用いた場合に内部でのSQL 文の作成方式を変更するオプションです。

- 設定

設定ファイル	conf/parameter.xml
パラメータ名	database.prepared-modify
パラメータ値	true / false (デフォルトは true)

parameter.xmlは IM-Juggling で設定が変更できます。

```
<param>
 <param-name>database.prepared-modify</param-name>
 <param-value>true</param-value>
</param>
```

- 説明

設定による動作は以下の通りです。

有効(true)	PreparedStatement を用いたSQL 文の作成方式（新仕様）を用います。
無効(false)	文字列連結によるSQL 文の作成方式（旧仕様）を用います。

この設定を有効にすると、以下の点が改善されます。

- nvarchar 系に対するUTF-8 の文字での更新、挿入が可能になります。（Microsoft SQL Server）

注意

この設定を true に設定した場合、以下の点に注意してください。

- PreparedStatement を用いたSQL 文の作成方式（新仕様）を用いますが、update のset 句、およびinsertのvalues 句のみ対応しています。 update のwhere 句については、互換性維持のため未対応となっています。
- PostgreSQL では、数値型カラムに文字列型で更新、挿入できない事象が確認されておりますので、このオプションの設定にかかわらず、必ず文字列連結によるSQL 文の作成方式（旧仕様）を用います。

コラム

intra-mart Web Platform 7.2.4での設定項目は以下の場所に存在しました。

conf/imart.xml
intra-mart/platform/service/application/database/prepared-modify タグ

Timestamp型マッピングオプション

データベース上のテーブルでtimestamp 型のフィールドを、Date 型オブジェクトとしてマッピングするための設定です。

- 設定

設定ファイル	conf/parameter.xml
パラメータ名	database.timestamp-is-date
パラメータ値	true / false (デフォルトは false)

parameter.xmlは IM-Juggling で設定が変更できます。

```
<param>
 <param-name>database.timestamp-is-date</param-name>
 <param-value>false</param-value>
</param>
```

- 説明

設定による動作は以下の通りです。

有効 (true)	timestamp 型フィールドはDate 型オブジェクトとして扱われます。 具体的には timestamp 型のフィールドを持つテーブルに対してDatabaseManager オブジェクトを使用して DatabaseResult を取得した場合、上記のフィールド値はDate 型のデータとして取得されます。 また、DbParameter.TYPE_DATE を使用してDate 型のデータを、timestamp 型のフィールドに対してセットできるようになります。
無効 (false)	String 型として扱われます。

注意

ナノ秒のデータは保証されません。

また、Microsoft SQLServer シリーズのtimestamp 型には対応しておりません。

コラム

intra-mart Web Platform 7.2.4での設定項目は以下の場所に存在しました。

conf/imart.xml
intra-mart/platform/service/application/database/data/timestamp-is-date タグ

アクセスセキュリティ

アクセスセキュリティAPIの仕様変更や注意点について解説します。

項目

- アカウント情報について
  - カラーパターン・メインページパターンとテーマIDの扱い
  - モバイルパスワード
  - 外出フラグ
- リスナー
  - アカウントリスナー
  - ロールリスナー
  - ライセンスリスナー
- インポート
  - アカウントXMLインポート
  - アカウントCSVインポート
  - ロールXMLインポート
- 旧ログインURLの利用方法
- ショートカットURLの利用方法
- 旧認証モジュールの利用方法
  - リクエストアナライザ
  - ユーザ認証モジュール
  - ユーザ認証リスナー
  - ユーザページプロバイダ

アカウント情報について

カラーパターン・メインページパターンとテーマIDの扱い

カラーパターン・メインページパターンはテーマに統合されました。
互換API AccountManager において、アカウントを登録する場合、カラーパターン・メインページパターンは無視されます。
アカウント参照時には、アカウントのテーマIDから該当する値にマッピングを行って、値を返却します。

モバイルパスワード

モバイルパスワードは、 intra-mart Accel Platform では廃止されました。
互換API AccountManager において、モバイルパスワードを設定した場合、アカウント属性に保管されるようになります。

アカウント属性の属性名は **im_compatible_mobile_password** です。

アカウント属性に保管されているモバイルパスワードの値は暗号化されています。
値を復号化する場合は、以下のコードを利用してください。

```
String mobilePassword = null;
AccountInfoManager manager = new AccountInfoManager().
String srcMobilePassword = manager.getAttribute(accountInfo.getUserCd(), CompatibleConstants.MOBILE_PASSWORD_ATTRIBUTE);
if(srcMobilePassword != null) {
  // 復号化します。
  mobilePassword = CryptionUtil.decrypt("account", srcMobilePassword);
}
```

なお、互換API AccountManagerを用いてアカウント情報を取得した場合は、復号化された状態で返却されます。

外出フラグ

外出フラグは、 intra-mart Accel Platform では廃止されました。
互換API AccountManager において、 外出フラグを設定した場合、 アカウント属性に保管されるようになります。

アカウント属性の属性名は **im_compatible_go_out** です。

属性値は以下の通りです。

有効(true)　“1”
無効(false)　“0”

リスナー

アクセスセキュリティの情報を更新した時に呼び出されるリスナーの設定方法が変更になりました。

アカウントリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.security.account.AccountChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.security.listeners">
    <listeners
      name="Account Listener Sample"
      id="account.changed.listener.sample"
      version="1.0">
      <account-listener class="sample.SampleAccountChangedListener1"/>
      <account-listener class="sample.SampleAccountChangedListener2"/>
    </listeners>
  </extension>
</plugin>
```

ロールリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.security.role.RoleChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.security.listeners">
    <listeners
      name="Role Listener Sample"
      id="role.changed.listener.sample"
      version="1.0">
      <role-listener class="sample.SampleRoleChangedListener1"/>
      <role-listener class="sample.SampleRoleChangedListener2"/>
    </listeners>
  </extension>
</plugin>
```

ライセンスリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.security.license.LicenseChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

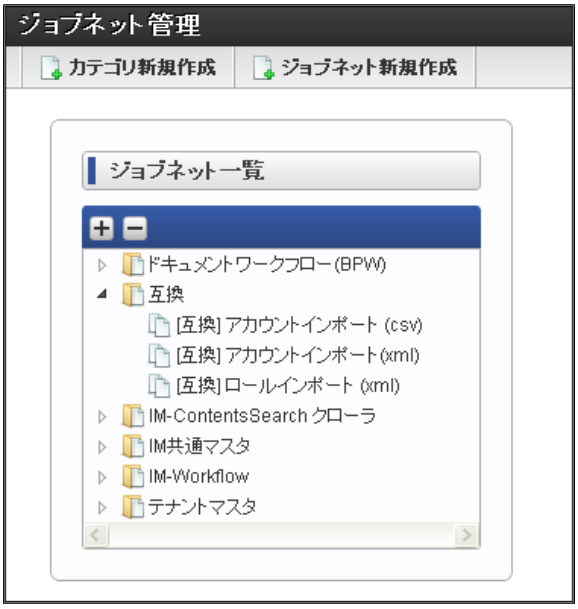
1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.security.license.listener">
    <groups
      name="License Listener Sample"
      id="license.changed.listener.sample"
      version="1.0">
      <listener class="sample.SampleLicenseChangedListener1"/>
      <listener class="sample.SampleLicenseChangedListener2"/>
    </groups>
  </extension>
</plugin>
```

インポート

intra-mart Web Platform 7.2 で利用されていたインポートファイルが利用可能です。

ショブスケジューラとして登録されています。



アカウントXMLインポート

intra-mart Web Platform 7.2 で利用されていたXML形式のアカウントインポートファイルでインポートを行います。

デフォルトでは、以下のような手順でインポートが実行できます。

1. **%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダに **account72.xml** という名称でインポートファイルを配置します。
2. **「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」** から **[互換] アカウントインポート(xml)** のジョブネットを実行します。

> 注意
>
> インポートによって新しくアカウントを登録する場合、登録したアカウントと同じIM-共通マスタのプロファイルをインポートしてください。

コラム

インポート元ファイル配置場所の変更

1. 「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」 から **[互換] アカウントインポート(xml)** を選択します。
2. **[実行時の情報]** の **[実行パラメータ]** で **file** の値を変更します。
   パス名は、**%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダからの相対パスで指定します。

アカウントCSVインポート

intra-mart Web Platform 7.2 で利用されていたCSV形式のアカウントインポートファイルでインポートを行います。
インポートファイルは、UTF-8形式で作成してください。

デフォルトでは、以下のような手順でインポートが実行できます。

1. **%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダに **account72.csv** という名称でインポートファイルを配置します。
2. 「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」 から **[互換] アカウントインポート(csv)** のジョブネットを実行します。

注意

インポートによって新しくアカウントを登録する場合、登録したアカウントと同じIM-共通マスタのプロファイルをインポートしてください。

コラム

インポート元ファイル配置場所の変更

1. 「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」 から **[互換] アカウントインポート(csv)** を選択します。
2. **[実行時の情報]** の **[実行パラメータ]** で **file** の値を変更します。
   パス名は、**%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダからの相対パスで指定します。

ロールXMLインポート

intra-mart Web Platform 7.2 で利用されていたXML形式のロールインポートファイルでインポートを行います。

デフォルトでは、以下のような手順でインポートが実行できます。

1. **%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダに **role72.xml** という名称でインポートファイルを配置します。
2. 「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」 から **[互換] ロールインポート(xml)** のジョブネットを実行します。

コラム

インポート元ファイル配置場所の変更

1. 「ジョブ管理」 → 「ジョブネット設定」 から **[互換] ロールインポート(xml)** を選択します。
2. **[実行時の情報]** の **[実行パラメータ]** で **file** の値を変更します。
   パス名は、**%PUBLIC_STORAGE_PATH%** フォルダからの相対パスで指定します。

旧ログインURLの利用方法

最新バージョンでは、intra-mart Web Platform 7.2 で利用していたログイン画面を表示するURLが利用可能です。

http://{ホスト名}:{ポート}/{コンテキストパス}/{テナントID}.portal

```
http://localhost:8080/imart/default.portal
```

コラム

intra-mart Accel Platform では、ログイングループが廃止されています。
通常 旧ログインURLを使用する場合は、 **{テナントID}.portal** を使用しますが、コンテキストパスによって、テナント（ログイングループ）が決定されますので、 **{任意の文字}.portal** で、すべて同様の動作となります。

ショートカットURLの利用方法

最新バージョンでは、ショートカットURLが利用可能です。

ショートカットURLの表記方法は、以下の２通りとなります

http://{ホスト名}:{ポート}/{コンテキストパス}/{テナントID}.portal?im_shortcut={ショートカットID}
　または
http://{ホスト名}:{ポート}/{コンテキストパス}/compatible/shortcut/{ショートカットID}

```
http://localhost:8080/imart/default.portal?im_shortcut=XXXXXX
 または
http://localhost:8080/imart/compatible/shortcut/XXXXXX
```

コラム

上記のURLにアクセスした場合、ショートカットIDに紐づいているページはiFrame内に表示されます。

旧認証モジュールの利用方法

intra-mart Web Platform 7.2 で利用していた旧認証モジュール群を intra-mart Accel Platform で利用する方法について解説します。

一般ユーザでのアクセスの場合のみに対応してます。

リクエストアナライザ

ログイン画面へのアクセス時 および ログイン画面からログイン処理アクセス時のリクエストを解析するモジュールです。

【ログイン画面へのアクセス時にリクエストを解析する場合】

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsRequestAnalyzer または RequestAnalyzerの実装クラスを作成します。
2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.initial_request_analyzer">
  <initial_request
   name="standard"
   id="jp.co.intra_mart.security.user.initial_request_analyzer.sample"
   version="8.0"
   rank="50">
   <request-analyzer-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsRequestAnalyzerAdapter</request-analyzer-class>
   <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsRequestAnalyzer または RequestAnalyzerの実装クラス</target-class>
  </initial_request>
 </extension>
</plugin>
```

コラム

標準のリクエストアナライザは、**rank** が 100 として登録されています。
標準のリクエストアナライザより先に動作させる場合は100より小さい値を指定してください。
標準のリクエストアナライザより後に動作させる場合は100より大きい値を指定してください。

【ログイン画面からログイン処理アクセス時にリクエストを解析する場合】

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsRequestAnalyzer または RequestAnalyzerの実装クラスを作成します。

2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.login_request_analyzer">
  <login_request
   name="standard"
   id="jp.co.intra_mart.security.user.login_request_analyzer.sample"
   version="8.0"
   rank="50">
   <request-analyzer-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsRequestAnalyzerAdapter</request-analyzer-class>
   <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsRequestAnalyzer または RequestAnalyzerの実装クラス</target-class>
  </login_request>
 </extension>
</plugin>
```

> コラム
>
> 標準のリクエストアナライザは、**rank** が 100 として登録されています。
> 標準のリクエストアナライザより先に動作させる場合は100より小さい値を指定してください。
> 標準のリクエストアナライザより後に動作させる場合は100より大きい値を指定してください。

ユーザ認証モジュール

ユーザ認証を行うモジュールです。

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserCertification または UserCertification の実装クラスを作成します。

2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.certification">
  <certification
   name="standard"
   id="jp.co.intra_mart.security.user.certification.sample"
   version="8.0"
   rank="50">
   <certification-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsUserCertificationAdapter</certification-class>
   <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserCertification または UserCertification の実装クラス</target-class>
  </certification>
 </extension>
</plugin>
```

> コラム
>
> 標準のユーザ認証モジュールは、**rank** が 100 として登録されています。
> 標準のユーザ認証モジュールより先に動作させる場合は100より小さい値を指定してください。
> 標準のユーザ認証モジュールより後に動作させる場合は100より大きい値を指定してください。

ユーザ認証リスナー

ユーザ認証後に呼び出されるリスナーモジュールです。

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserCertificationListener または UserCertificationListener の実装クラスを作成します。

2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.certification">
    <certification
      name="standard"
      id="jp.co.intra_mart.security.user.certification.sample"
      version="8.0"
      rank="50">
      <certification-listener>
        <listener-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsUserCertificationListenerAdapter</listener-class>
        <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserCertificationListener または UserCertificationListener の実装クラス</target-class>
      </certification-listener>
    </certification>
  </extension>
</plugin>
```

ユーザページプロバイダ

ログイン画面へのアクセス時に表示するページ および ログイン後のメイン画面を表示するページを返却するプロバイダモジュールです。

【ログイン画面へのアクセス時に表示するページを設定する場合】

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserPageProvider または UserPageProvider の実装クラスを作成します。
2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.login_page">
    <page
      name="standard"
      id="jp.co.intra_mart.security.user.login_page.sample"
      version="8.0"
      rank="50">
      <page-provider-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsUserPageProviderAdapter</page-provider-class>
      <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserPageProvider または UserPageProvider の実装クラス</target-class>
    </page>
  </extension>
</plugin>
```

上記に設定された実装クラスで利用されるメソッドは getInitalPage です。

> コラム
>
> 標準のユーザページプロバイダは、**rank** が 100 として登録されています。
> 標準のユーザページプロバイダより先に動作させる場合は100より小さい値を指定してください。
> 標準のユーザページプロバイダより後に動作させる場合は100より大きい値を指定してください。
> 一般的には100より小さい値を指定してください。

【ログイン後のメイン画面に表示するページを設定する場合】

1. jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserPageProvider または UserPageProvider の実装クラスを作成します。
2. **WEB-INF/plugin/ユニークな半角英数字のフォルダ/plugin.xml** を作成し、以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
  <extension point="jp.co.intra_mart.security.user.target_page">
    <page
      name="standard"
      id="jp.co.intra_mart.security.user.target_page.sample"
      version="8.0"
      rank="150">
      <page-provider-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification.ExtendsUserPageProviderAdapter</page-provider-class>
      <target-class>jp.co.intra_mart.foundation.security.certification パッケージの ExtendsUserPageProvider または UserPageProvider の実装クラス</target-class>
    </page>
  </extension>
</plugin>
```

上記に設定された実装クラスで利用されるメソッドは **getMainPage** です。

> コラム
>
> 標準のユーザページプロバイダは、**rank** が 100 として登録されています。
> 標準のユーザページプロバイダより先に動作させる場合は100より小さい値を指定してください。
> 標準のユーザページプロバイダより後に動作させる場合は100より大きい値を指定してください。
> 一般的には100より大きい値を指定してください。

ジョブスケジューラへの登録方法

intra-mart Web Platform で利用していたバッチプログラムを利用する方法について解説します。

項目

- ジョブの登録
  - JavaEE開発モデル
  - スクリプト開発モデル

ジョブの登録

開発モデル別にバッチプログラムを登録する方法を説明します。

実際にジョブスケジューラで、実行する場合は、ジョブネットを作成し、登録したジョブを追加して実行してください。

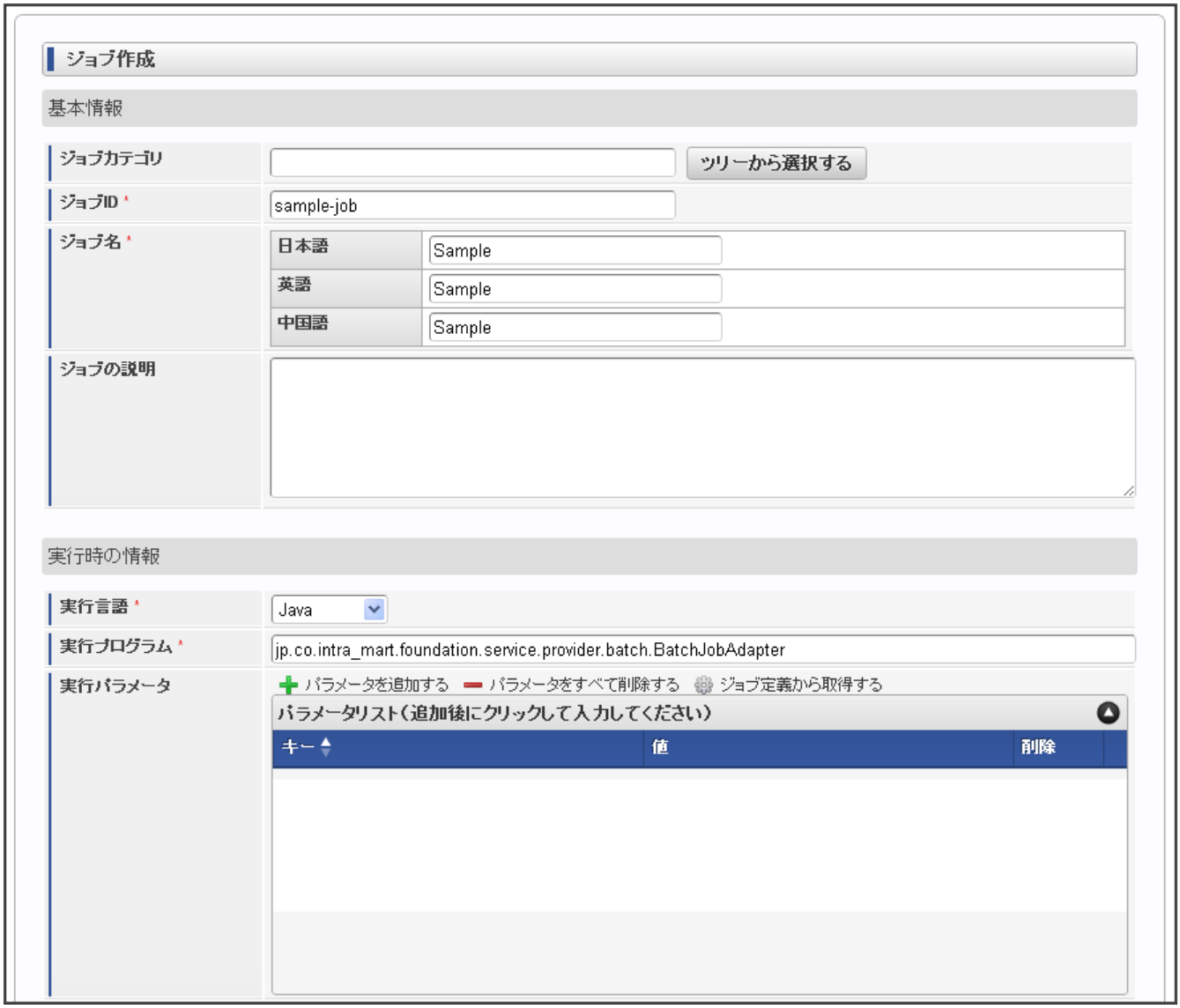
JavaEE開発モデル

Javaで記述されたバッチプログラムをジョブとして登録するには以下のように設定します。

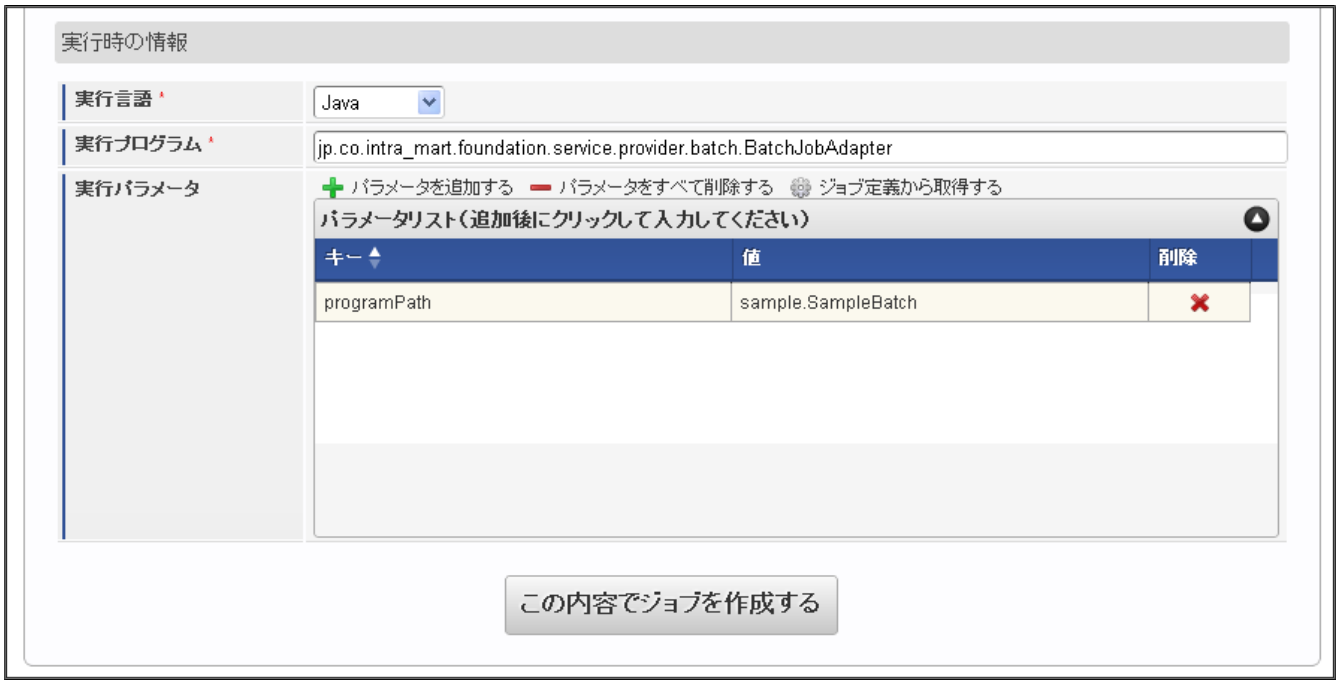
利用できるバッチプログラムは **jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.batch.ProcedureComponent** を実装している必要があります。

1. **「ジョブ管理」** → **「ジョブ設定」** から **ジョブ新規作成** をクリックします。
2. 右側の画面で以下のように入力します。

項目	説明
ジョブカテゴリ	任意に指定してください。
ジョブID	任意に指定してください。
ジョブ名	任意に指定してください。
ジョブの説明	任意に指定してください。
実行言語	Java
実行プログラム	jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.batch.BatchJobAdapter



3. **[実行パラメータ]** の **[ジョブ定義から取得する]** をクリックします。
パラメータリストに **programPath** が追加されますので、値の項目にバッチプログラムのクラス名を指定します。



4. **[この内容でジョブを作成する]** をクリックします。

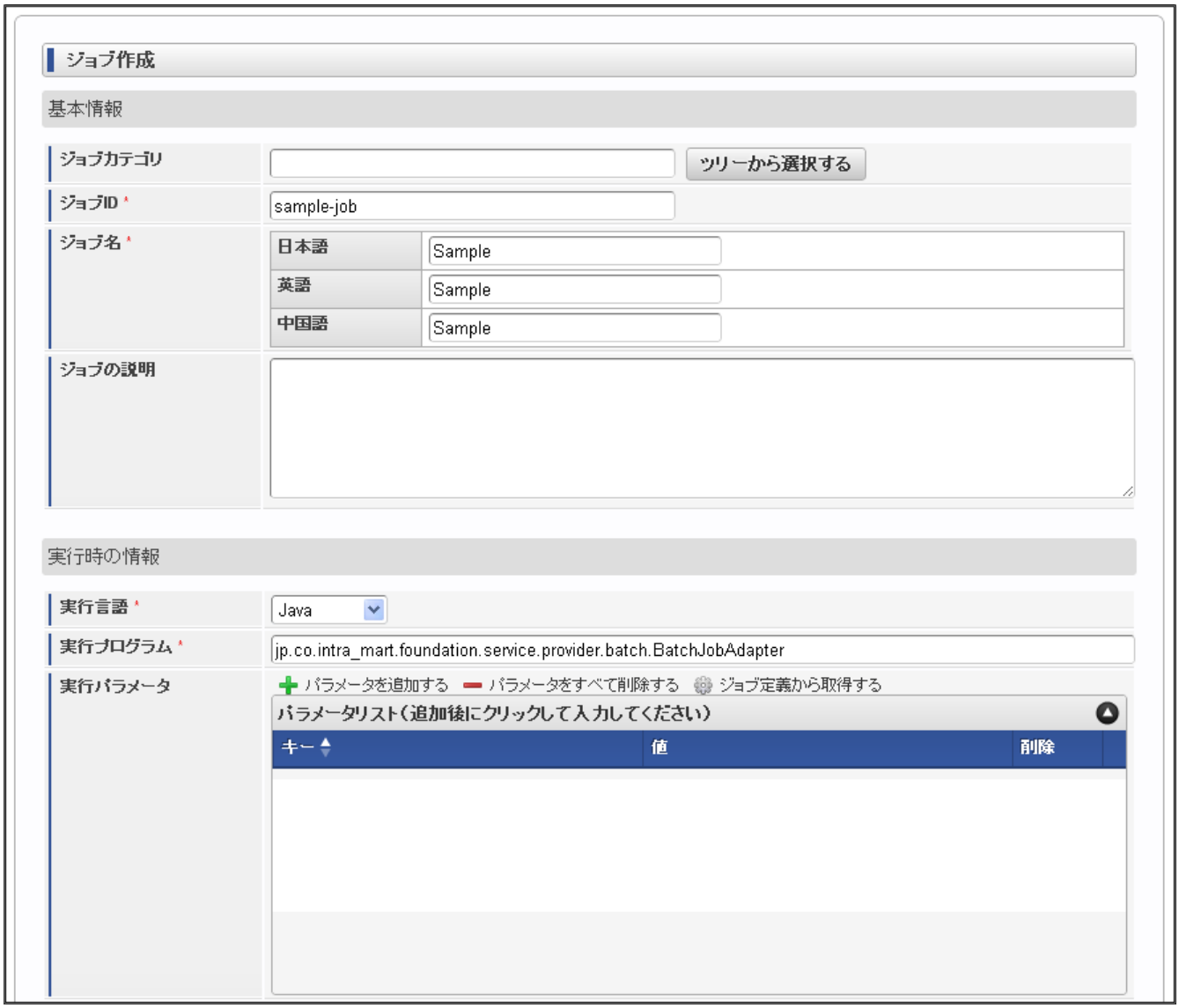
スクリプト開発モデル

スクリプトで記述されたバッチプログラムをジョブとして登録するには以下のように設定します。

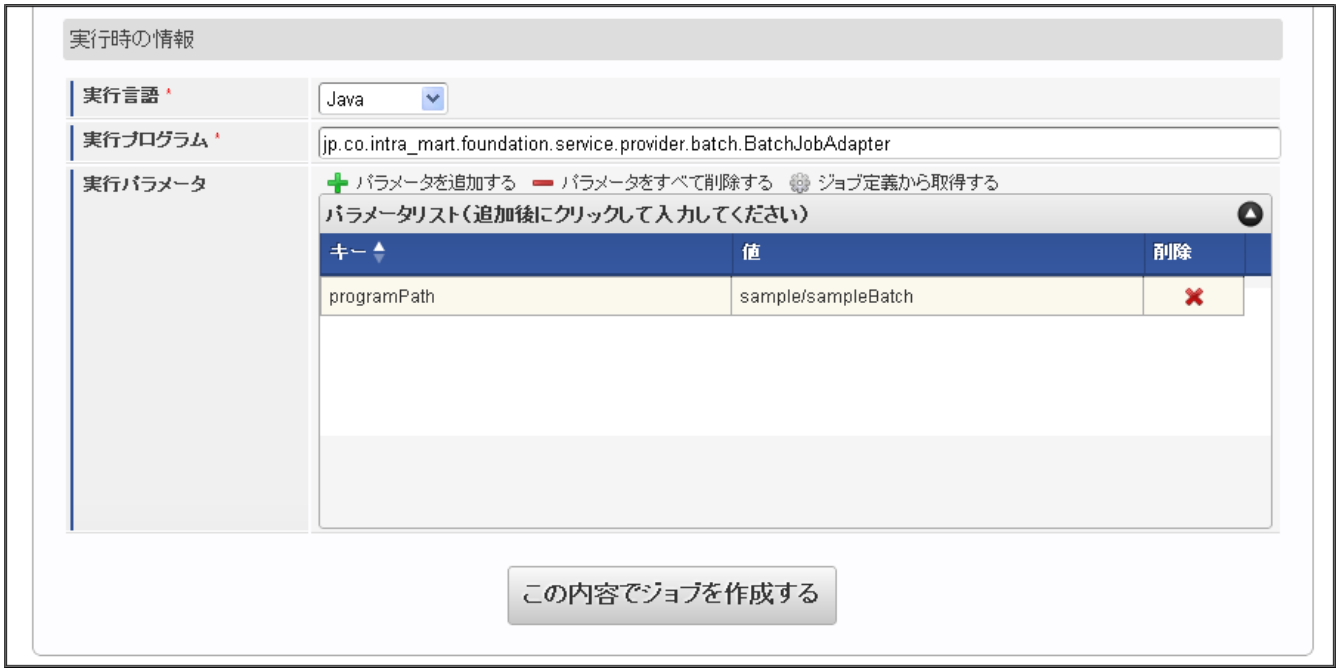
利用できるバッチプログラムは **init()** が定義されている必要があります。

1. **「ジョブ管理」 → 「ジョブ設定」** から **ジョブ新規作成** をクリックします。
2. 右側の画面で以下のように入力します。

項目	説明
ジョブカテゴリ	任意に指定してください。
ジョブID	任意に指定してください。
ジョブ名	任意に指定してください。
ジョブの説明	任意に指定してください。
実行言語	Java
実行プログラム	jp.co.intra_mart.foundation.service.provider.batch.BatchJobAdapter



3. **[実行パラメータ]** の **[ジョブ定義から取得する]** をクリックします。
   パラメータリストに **programPath** が追加されますので、値の項目にバッチプログラムのパスを指定します。



4. **[この内容でジョブを作成する]** をクリックします。

アプリケーション共通マスタ

アプリケーション共通マスタの利用するにあたっての注意点について解説します。

項目

- メニューについて
- 認可設定
- マスタ同期について
- 検索画面オプション
- リスナー
  - プロファイルリスナー
  - 会社・組織リスナー
  - パブリックグループリスナー
  - プライベートグループリスナー

メニューについて

メンテナンス用メニューは「アプリケーション共通マスタ」メニューグループに登録されています。

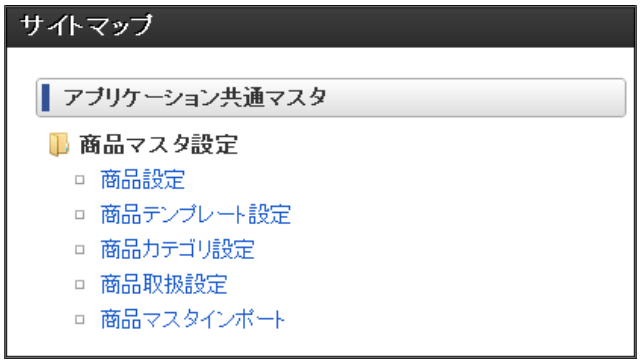
アプリケーション共通マスタは、IM-共通マスタと同期されていることが前提となっています。
同期されていないマスタについては、メンテナンス用の画面があります。

- 同期されているマスタ
  - プロファイル
  - 会社・組織
  - パブリックグループ
  - プライベートグループ

  同期されているマスタについては、メンテナンス画面はありません。
  上記のマスタのメンテナンスはIM-共通マスタのメンテナンス画面からメンテナンスすることで同期されます。

- 同期されていないマスタ
  - 商品マスタ

  商品マスタについては、メンテナンス画面が提供されています。
  デフォルトではサイトマップよりメンテナンス画面にアクセスできます。



認可設定

- 認可用ロールについて

  互換モジュールを利用して、移行を行うと、認可用にロールとして以下のものが作成されます。

  - **[アプリケーション共通マスタ管理者]** ロール(im_appcmn_manager)
    アプリケーション共通マスタのメンテナンスを行うためのロールとして使用します。
    すでに同じロールIDが存在する場合は、上書きします。

- 各メンテナンス画面の認可

  デフォルトとして商品マスタのメンテナンス画面へのアクセス認可にアプリケーション共通マスタ管理者およびテナント管理者ロールが

設定されています。
アカウントに対して、アプリケーション共通マスタ管理者ロールを付与することで、利用できるようになります。

デフォルトでの商品マスタのメンテナンス画面への認可設定

- 「アプリケーション共通マスタ」メニューグループの認可

デフォルトとして「アプリケーション共通マスタ」メニューグループへのアクセス認可にアプリケーション共通マスタ管理者およびテナント管理者ロールが設定されています。
アカウントに対して、アプリケーション共通マスタ管理者ロールを付与することで、利用できるようになります。

デフォルトでの「アプリケーション共通マスタ」メニューグループへの認可設定

コラム

デフォルトの認可設定は、設定を強制するものではありません。
利用しやすいように自由にカスタマイズを行ってください。

マスタ同期について

IM-共通マスタの組織分類が会社で管理できるようになったため、組織分類の情報は、アプリケーション共通マスタに同期されません。

アプリケーション共通マスタでは、組織分類の情報が一元管理されており、その情報を、すべての会社のすべての組織に対して利用できるようになっています。

IM-共通マスタでは、組織分類の情報が会社単位で管理されており、その情報は、その会社の組織に対してのみ利用できるようになっています。

検索画面オプション

組織検索画面等における初期表示の組織情報表示方式を切り替えるオプションです。

- 設定

設定ファイル	conf/parameter.xml
パラメータ名	search.treeview
パラメータ値	true / false (デフォルトは false)

```
<param>
 <param-name>search.treeview</param-name>
 <param-value>false</param-value>
</param>
```

- 説明

組織検索画面などにおける初期表示の組織情報表示方式を２つのパターンから切り替えることができます。
標準では、リンクによるリスト表示になっており、特定の組織をクリックすることにより一度サーバに問い合わせて内包されている子組織を再表示します。
この設定を有効（true）にすると、ツリー形式により組織構造が表示されるようになります。

設定による動作は以下の通りです。

有効(true)	組織検索画面などの初期表示がツリー形式で表示されます。
無効(false)	組織検索画面などの初期表示がリンクによるリスト形式で表示されます。

注意

この機能は、過去の機能を互換するために用意されたものです。
この機能を利用して、メニューと同様のツリー形式による組織表示を行うと、その実装上の問題から組織の規模が大きくなるに従ってパフォーマンスが低下する可能性があります。

コラム

intra-mart Web Platform 7.2.4での設定項目は以下の場所に存在しました。

conf/imart.xml
intra-mart/platform/service/application/tree-view タグ

リスナー

アプリケーション共通マスタの情報を更新した時に呼び出されるリスナーの設定方法が変更になりました。

プロファイルリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.domain.user.UserChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.listeners">
  <listeners
   name="Sample Profile Listener"
   id="profile.changed.listeners.sample"
   version="8.0">
   <profile-listener class="sample.SampleUserChangedListener1"/>
   <profile-listener class="sample.SampleUserChangedListener2"/>
  </listeners>
 </extension>
</plugin>
```

会社・組織リスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.domain.company.CompanyChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.listeners">
  <listeners
   name="Sample Department Listener"
   id="department.changed.listeners.sample"
   version="8.0">
   <department-listener class="sample.SampleCompanyChangedListener1"/>
   <department-listener class="sample.SampleCompanyChangedListener2"/>
  </listeners>
 </extension>
</plugin>
```

パブリックグループリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラスは、**jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.domain.public_group.PublicGroupChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.listeners">
  <listeners
   name="Sample Public Group Listener"
   id="public.changed.listeners.sample"
   version="8.0">
   <public-group-listener class="sample.SamplePublicGroupChangedListener1"/>
   <public-group-listener class="sample.SamplePublicGroupChangedListener2"/>
  </listeners>
 </extension>
</plugin>
```

プライベートグループリスナー

プラグインファイルによって設定する方法に変更になりました。

リスナークラス
は、**jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.domain.private_group.PrivateGroupChangedListener** を実装して作成したものが利用できます。

1. 作成されたwarファイル内の **WEB-INF/plugin** フォルダにユニークな名称のフォルダを作成します。
2. 作成したフォルダ内にplugin.xmlファイルを作成します。
3. plugin.xmlに以下のように記述します。
   クラス名は、該当のリスナークラスに差し替えてください。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<plugin>
 <extension point="jp.co.intra_mart.foundation.datastore.application.listeners">
  <listeners
   name="Sample Public Group Listener"
   id="public.changed.listeners.sample"
   version="8.0">
   <private-group-listener class="sample.SamplePrivateGroupChangedListener1"/>
   <private-group-listener class="sample.SamplePrivateGroupChangedListener2"/>
  </listeners>
 </extension>
</plugin>
```

共通マスタ同期仕様

IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタの同期処理の仕様を説明します。

同期処理とは IM-共通マスタに対して行われるデータ更新処理(追加、更新、削除)に応じてアプリケーション共通マスタに対してデータ更新処理を行うことでIM-共通マスタとアプリケーション共通マスタのデータ構造を可能な限り同一にすることを目的とした処理を指します。

項目

- 基本仕様
  - 概要
  - 同期対象
  - 基本共通動作
- 詳細仕様
  - 概要
  - 会社組織 – 会社組織セット
  - 会社組織 – 役職・組織所属役職
- 同期処理を行わないようにする
- テナントごとに同期処理の実施有無を設定する

基本仕様

概要

当項目では、同期処理を行う上で対象となるエンティティおよびテーブル、また各エンティティにおいて共通する同期処理の仕様についての説明を行います。

同期対象

同期対象となるエンティティは以下の通りです。

- ユーザ
- 会社・組織
- パブリックグループ
- プライベートグループ

同期対象 - ユーザ

ユーザエンティティに関して同期対象となるテーブルを以下に示します。

同期対象テーブル

IM-共通マスタ	アプリケーション共通マスタ
imm_user	b_m_user_b b_m_user_t b_m_user_t_i

同期対象外のテーブル

対象外のテーブル
imm_user_ctg
imm_user_ctg_ath
imm_user_ctg_itm

同期対象 – 会社・組織

会社・組織エンティティに関して同期対象となるテーブルを以下に示します。

対象となる組織、役職は、IM-共通マスタのデフォルトセットのみとなります。

同期対象テーブル

IM-共通マスタ	アプリケーション共通マスタ
imm_company	b_m_company_b
imm_company_post	b_m_company_post_b b_m_company_post _t b_m_company_post _t_i
imm_department	b_m_department_b b_m_department_t b_m_department_t_i
imm_department_ath (imm_department_post_ath)	b_m_department_attach_b b_m_department_attach_t b_m_department_main_b b_m_department_main_t
imm_department_inc_ath	b_m_company_version_b b_m_department_inclusion_b
imm_department_ctg_ath (imm_department)	b_m_company_category_b b_m_company_category_t

同期対象外のテーブル

対象外のテーブル
imm_department_ctg
imm_department_ctg_itm
imm_department_setimm_user_ctg

同期対象 – パブリックグループ

パブリックグループエンティティに関して同期対象となるテーブルを以下に示します。

同期対象テーブル

IM-共通マスタ	アプリケーション共通マスタ
imm_public_grp	b_m_public_group_b b_m_public_group_t b_m_public_group_t_i
imm_public_grp_set	b_m_public_group_set_b
imm_public_grp_ath	b_m_public_group_attach_b b_m_public_group_attach_t
imm_public_grp_inc_ath	b_m_public_group_version_b b_m_public_group_inclusion_b
imm_public_grp_ctg_ath (imm_public_grp)	b_m_public_group_category_b b_m_public_group_category_t

同期対象外のテーブル

対象外のテーブル
imm_public_grp_ctg
imm_public_grp_ctg_ath
imm_public_grp_role
imm_public_grp_role_ath

同期対象 – プライベートグループ

プライベートグループエンティティに関して同期対象となるテーブルを以下に示します。

同期対象テーブル

IM-共通マスタ	アプリケーション共通マスタ
imm_private_grp	bb_m_private_group_b
imm_private_grp_ath	b_m_private_group_attach_b

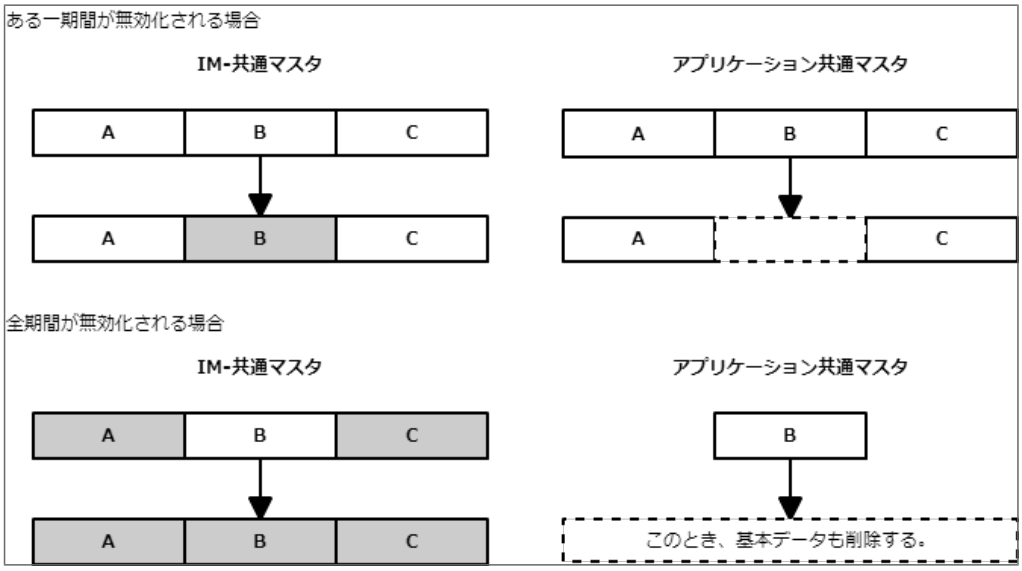
基本共通動作

同期処理に関して共通的に存在する動作について、仕様を以下に示します。

論理削除

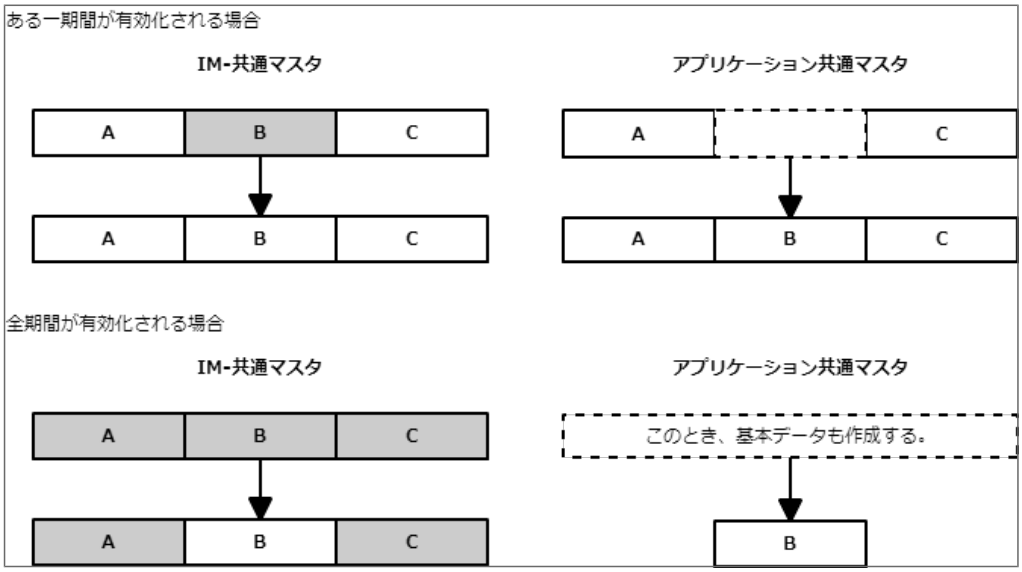
IM-共通マスタから新しく導入された概念として、論理削除があります。
しかし、アプリケーション共通マスタでは論理削除という概念はありません。

この点に関して同期処理では、IM-共通マスタで論理削除(無効化)された場合にアプリケーション共通マスタの該当する期間データの物理削除を行います。
また、論理削除の結果すべての期間が無効化された場合、アプリケーション共通マスタでは期間データおよび基本データの物理削除を行います。



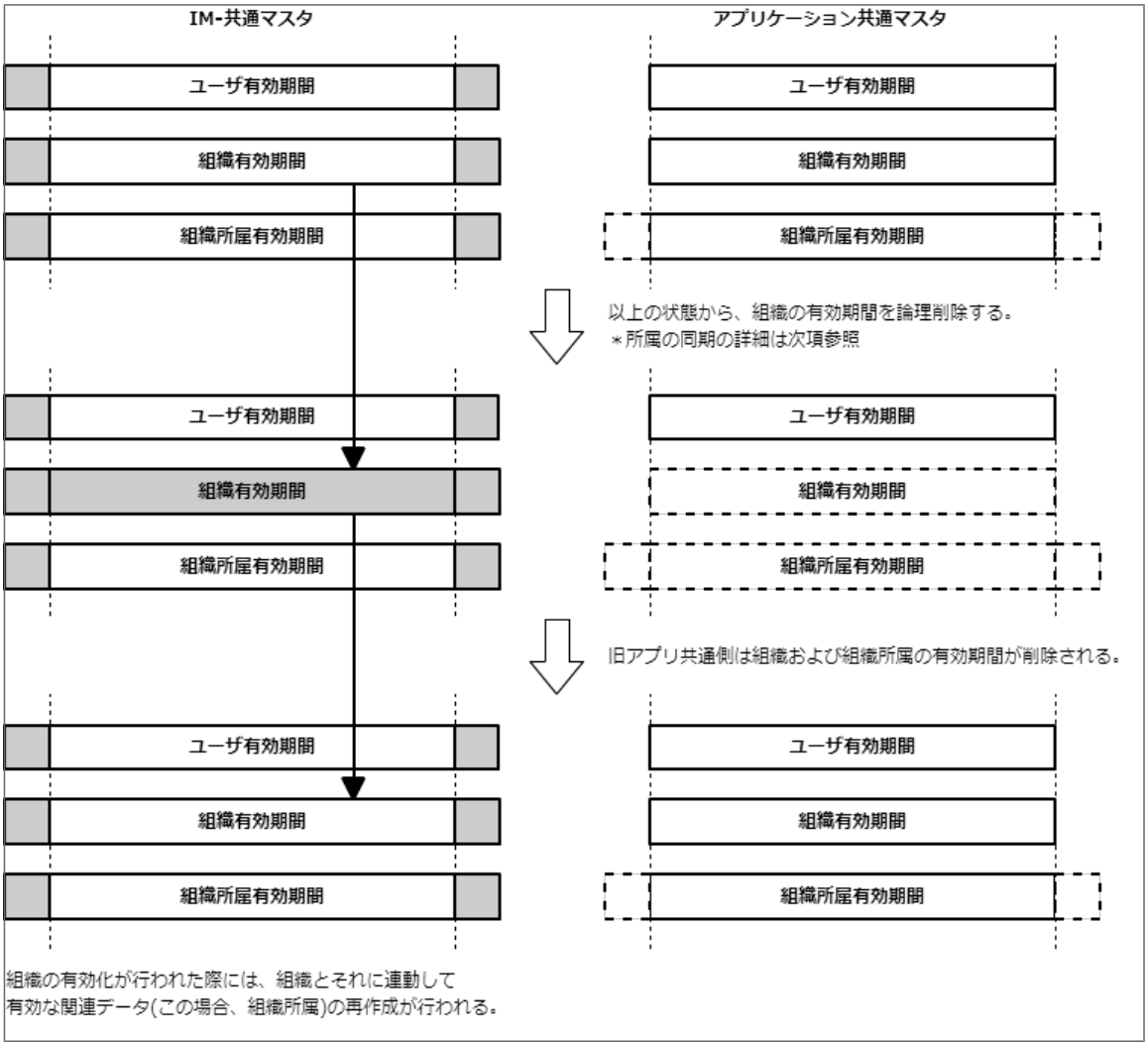
無効化された場合の新旧データ構造の変化

論理削除からの復帰時(有効化)にはアプリケーション共通マスタの対応する期間データを作成します。
また、すべての期間が無効化されていたデータに対してある一期間が有効化された場合、アプリケーション共通マスタでは対象の期間データおよび基本データの作成を行います。



有効化された場合の新旧データ構造の変化

前述の通り、IM-共通マスタにおいて論理削除は論理削除対象に関連するデータ(例：組織と組織所属)が有効な状態(非論理削除)のまま、論理削除を行うことが可能です。
この点に関してアプリケーション共通マスタへの同期処理時には、整合性の制約から関連するデータも同時に削除されることになります。
逆に、そのようなデータが有効化された場合には同時に削除されたデータの復帰処理が行われます。



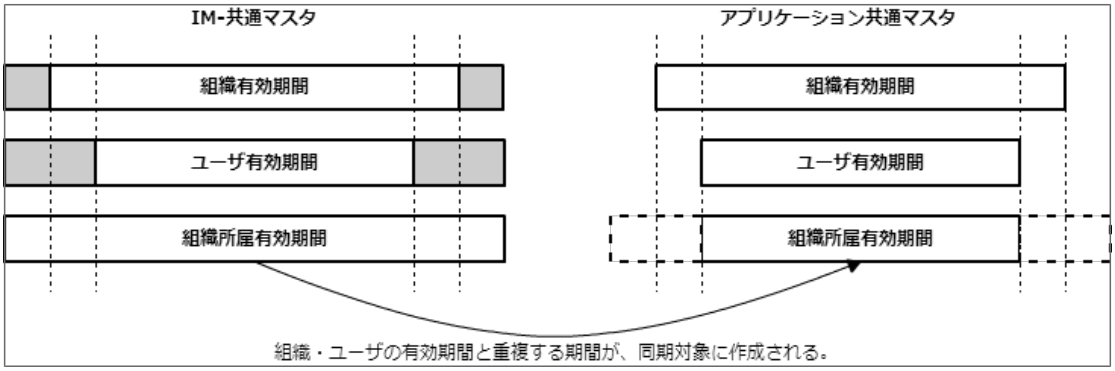
関連データを含む論理削除

上記の場合であれば、他にも内包構成、組織所属役職、分類所属といったものも有効な期間が存在している場合には削除・復帰処理が行われることになります。

所属

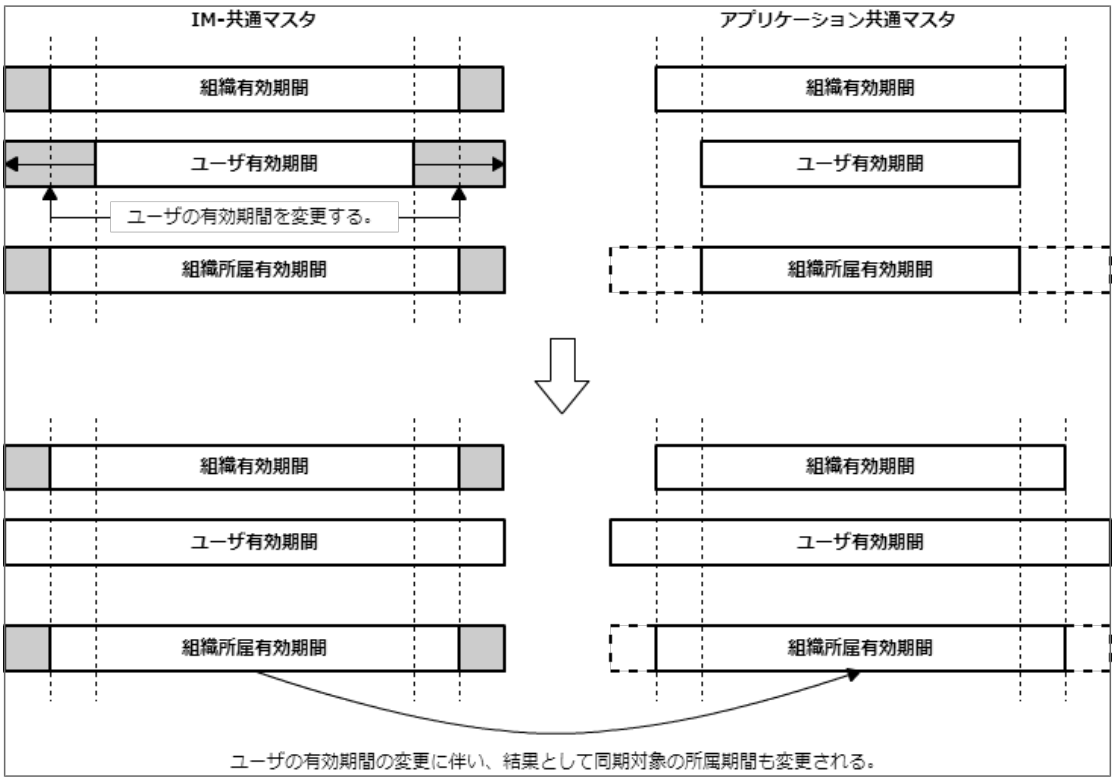
アプリケーション共通マスタでは、所属させる期間は所属対象および被所属対象の有効期間が重なる期間にのみ設定を行えるという制限がありました。
これに関して、IM-共通マスタでは所属に関して従来に比べて制限が緩和され、所属対象および被所属対象の有効期間に縛られず所属期間が設定でき、自由度が増す形となっています。

この点に関して同期処理では、IM-共通マスタの所属データを上記の制限からそのまま作成することは出来ません。
そこで、所属対象および被所属対象の有効期間を考慮した所属期間を算出し、その期間を元にアプリケーション共通マスタに対してデータの作成を行います。



所属期間の決定方法(例：ユーザの組織所属)

また、所属期間そのものでなく所属対象および被所属対象の期間変更が行われ、結果的に所属期間に変化が起きた場合もその都度変更を反映させます。

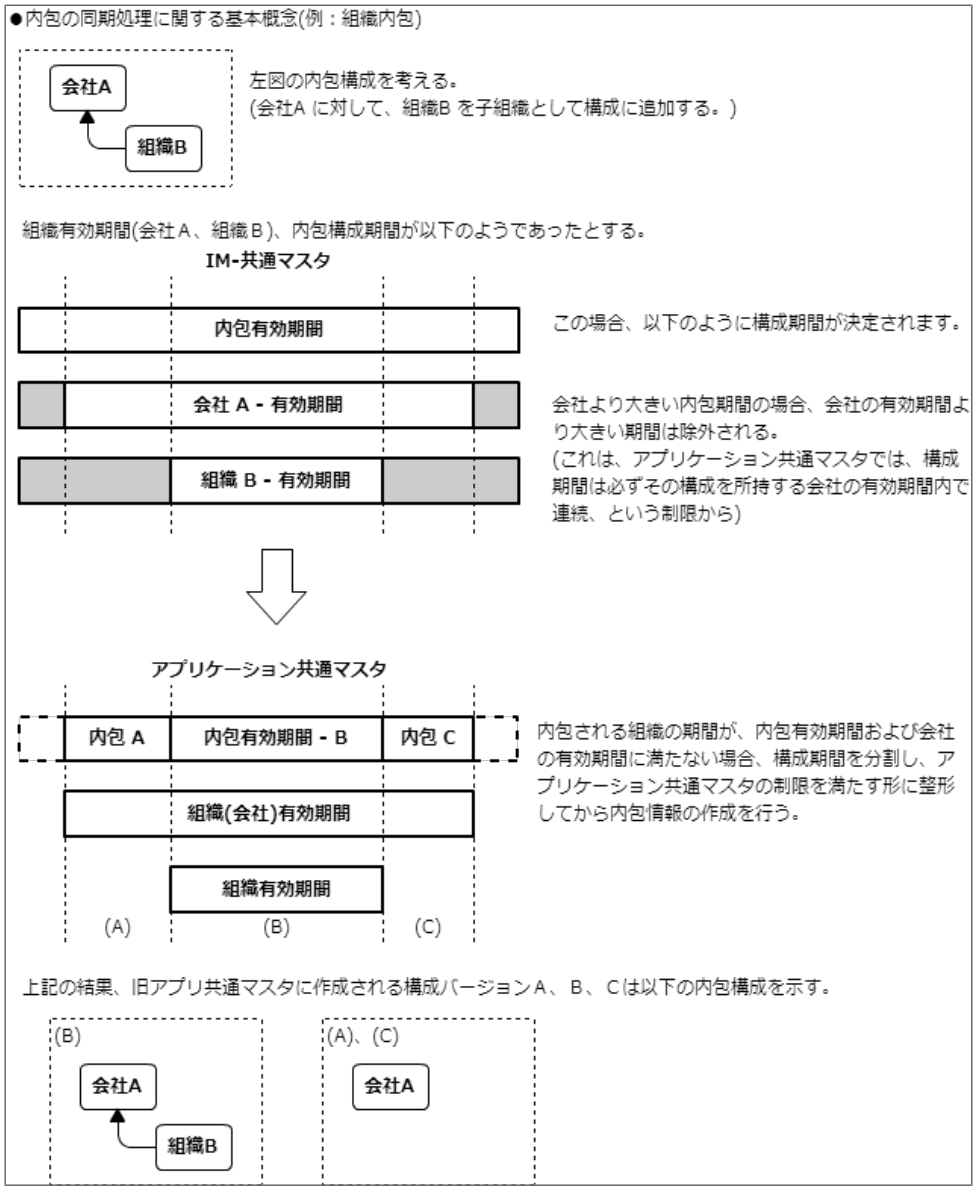


所属期間の間接的な変更(例：ユーザの有効期間更新)

内包

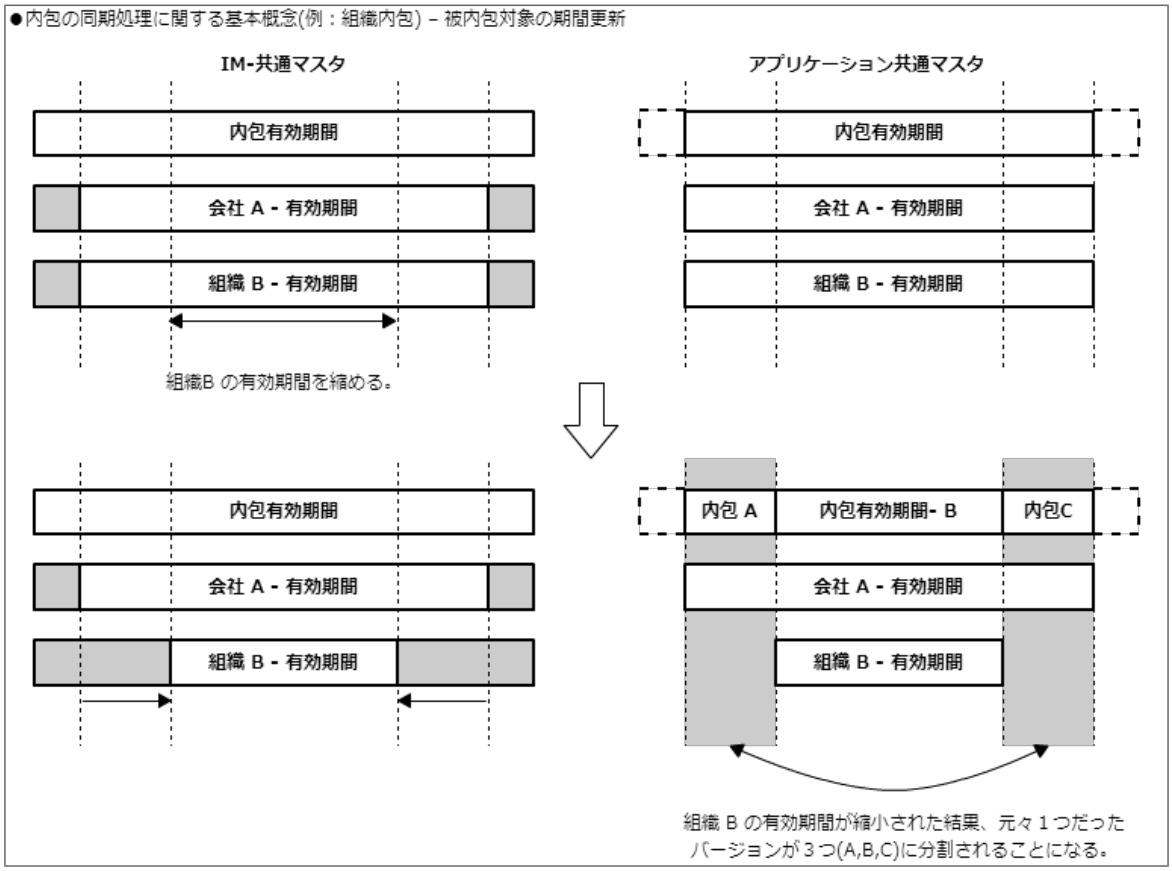
アプリケーション共通マスタでは、ある構成期間(バージョン)に対して内包させる被内包データはその構成期間内に連続して有効な期間を持たなくてはならない、という制限がありました。
これに関して、IM-共通マスタでは内包に関して従来に比べて制限が緩和され、被内包データの期間は内包構成期間に縛られず設定でき、自由度が増す形となっています。

この点に関して同期処理では、IM-共通マスタの内包データを上記の制限からそのまま作成することは出来ません。
内包する構成期間および被内包対象の有効期間を考慮したうえで、アプリケーション共通マスタの制限に沿うように構成期間を調整・分割し、データ作成を行います。



内包期間の基本概念の例(組織内包)

また、所属の場合と同様に被内包対象の期間変更が行われ、結果的にその内包期間に変化が起きた場合もその都度変更を反映し、必要に応じてバージョンの分割等の調整を行います。



内包期間の被内包対象の期間更新

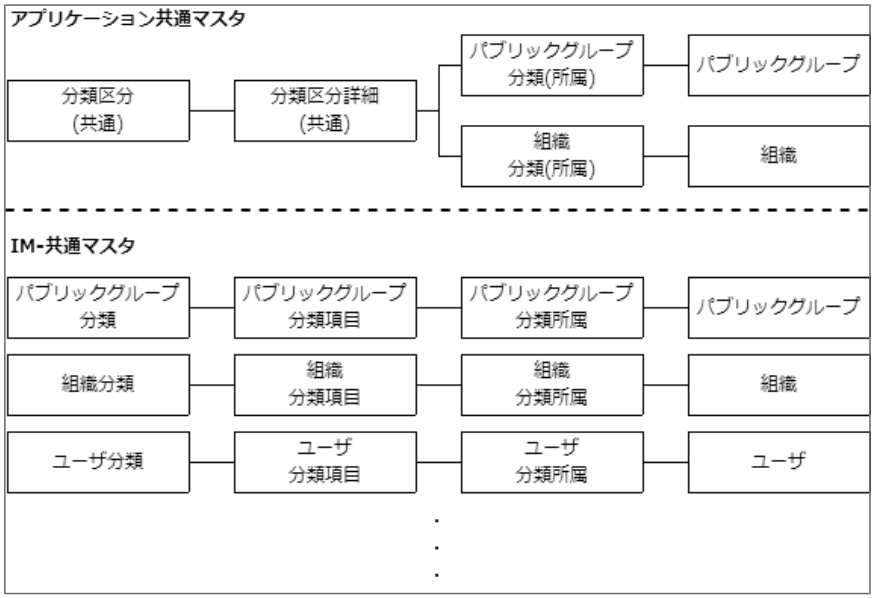
上記仕様により、内包や被内包対象の期間操作は、その操作によって非常に多くのバージョン分割が行われる可能性があることを示唆しています。

分類

IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタでは分類とその所属情報の考え方が異なります。具体的には以下の通りです。

- アプリケーション共通マスタでは、共通の分類区分・分類区分詳細を特定のエンティティ(会社組織、パブリックグループの二つ)が紐付けて所属させる形を取る。
- IM-共通マスタでは、各エンティティにそれぞれの分類・分類項目を持ち、それらに対して紐付けて所属させる形を取る。

両共通マスタの分類の構成を以下の図に示す。



分類の構成の相違点

これら構成の違いから、分類に関する同期処理は以下の条件の下に行われます。

- 同期処理は原則として、両アプリケーション共通マスタに存在する分類・分類項目(分類詳細)にのみ適応されます。
- これより、実際の同期処理は会社組織・パブリックグループの分類に関してのみ行われます。
- 同期対象は分類の所属情報のみとする。分類、分類項目の追加、更新、削除に関しては同期処理を行わない。
- ただし、分類、分類項目の削除(論理・物理)処理によって、それに関する所属情報が消える場合にはその所属情報の変更のみ同期処理を行うものとする。

詳細仕様

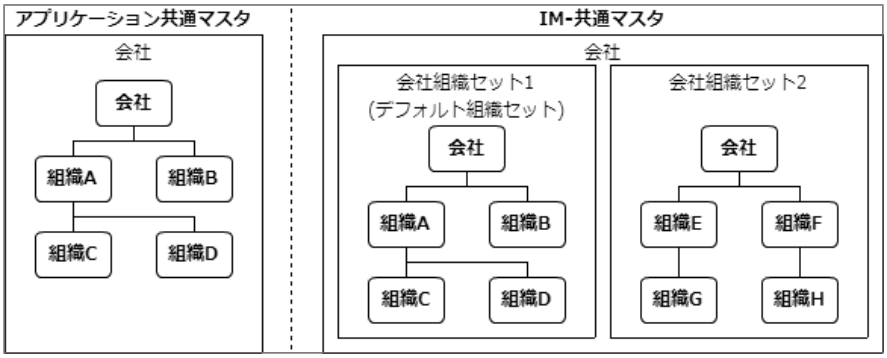
概要

IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタとでは内容によっては決定的に仕様が異なり、完全な同期を行うことが不可能な場合があります。

当項目ではそれらの同期を行う際の代替的な仕様・動作についての詳細説明を行います。

会社組織 – 会社組織セット

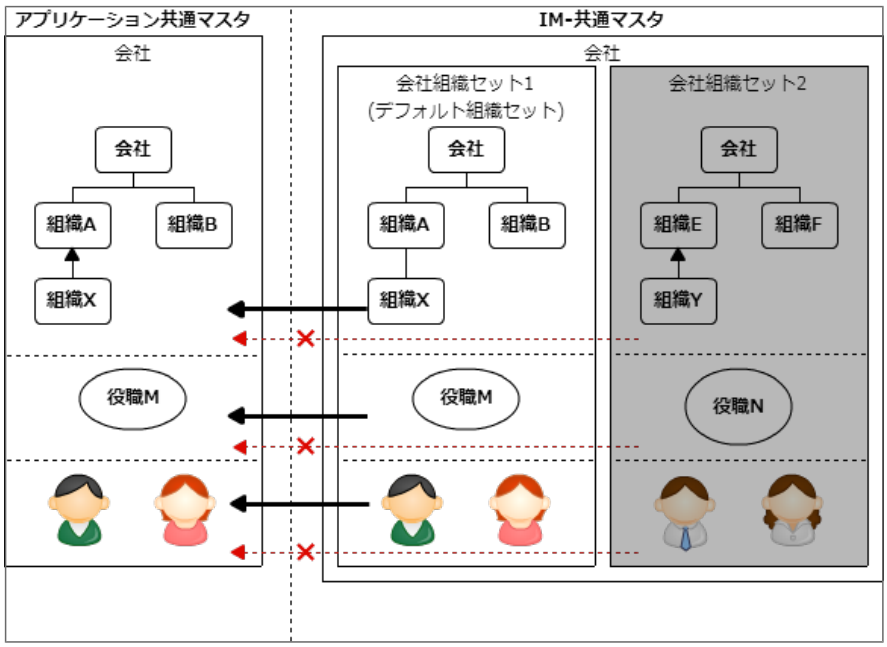
IM-共通マスタの会社組織エンティティには新しく会社組織セットテーブルが追加されました。
これにより、従来の[会社]-[組織]という関係は、[会社]-[組織セット]-[組織]という関係に変更されました。



会社と組織の関係

この会社と組織の関係の相違により、IM-共通マスタの会社組織データをそのまま全て同期することは不可能です。

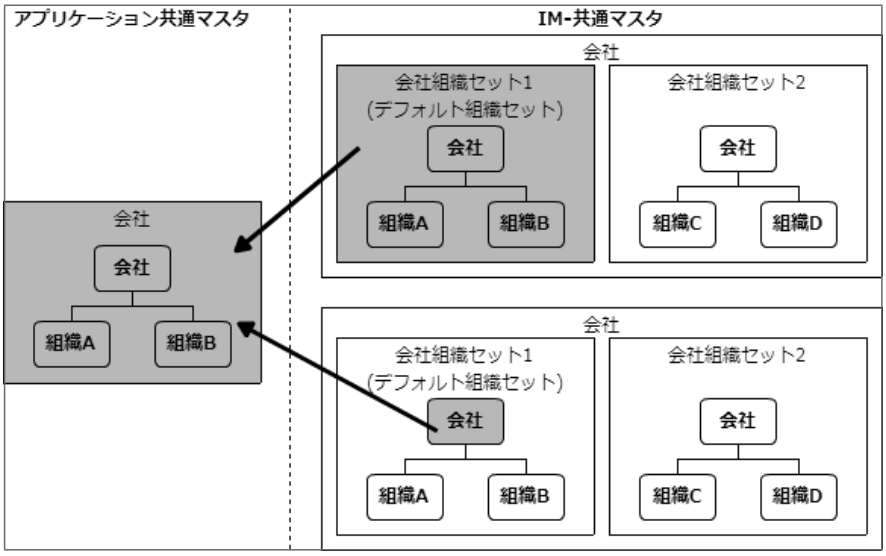
以上の関係を考慮し、同期処理では会社組織の同期対象を会社のデフォルト組織セット(会社作成時、同時に作成される会社コードと同一の組織セットコードを持つ組織セット)に限定しています。
これは組織セットに紐付く組織、役職、所属、内包といったもの全てにおいて限定されています。



同期の対象範囲

この対応関係から、IM-共通マスタのデフォルト組織セット自体や会社期間が全て無効化(または削除された場合、アプリケーション共通マスタ

では会社自体の削除が行われます。

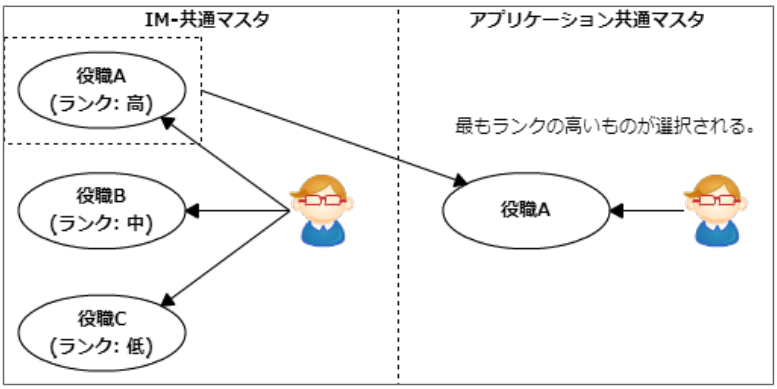


会社が削除される場合

会社組織 – 役職・組織所属役職

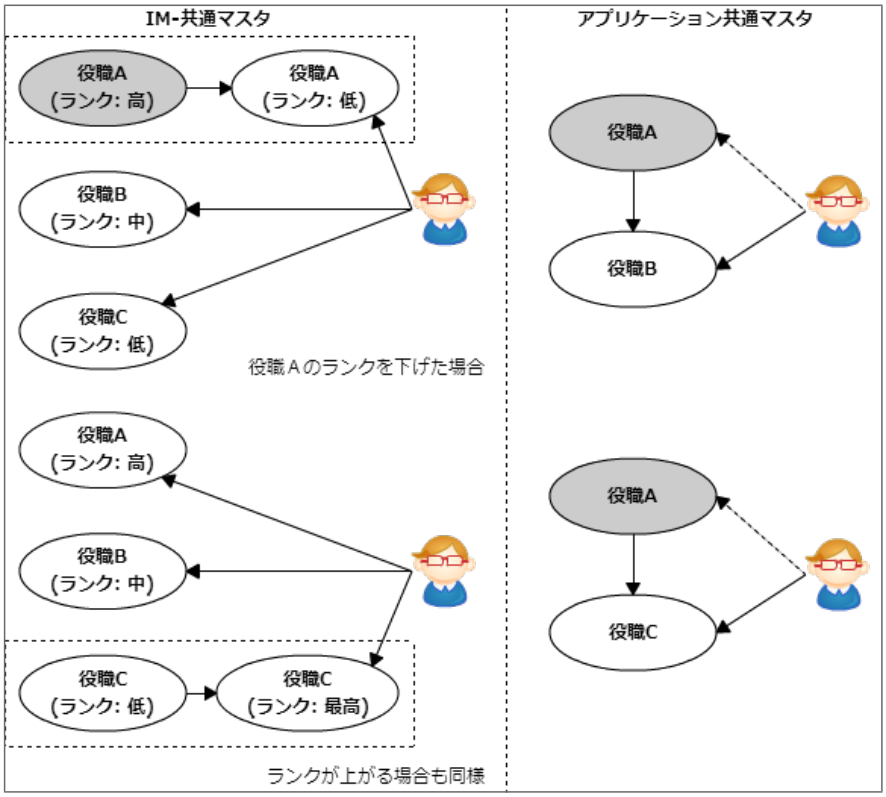
IM-共通マスタでは一人のユーザに対してある所属期間に複数の役職を設定できるようになりました。
しかし、アプリケーション共通マスタではユーザに設定できる役職は所属期間に唯一つのみとなっています。

この組織所属役職に関しての仕様の相違に関して、同期処理では設定されている役職のうち最もランクの高いものを同期対象として処理を行います(同じランクの場合、始めにつけたほうが優先されます)。



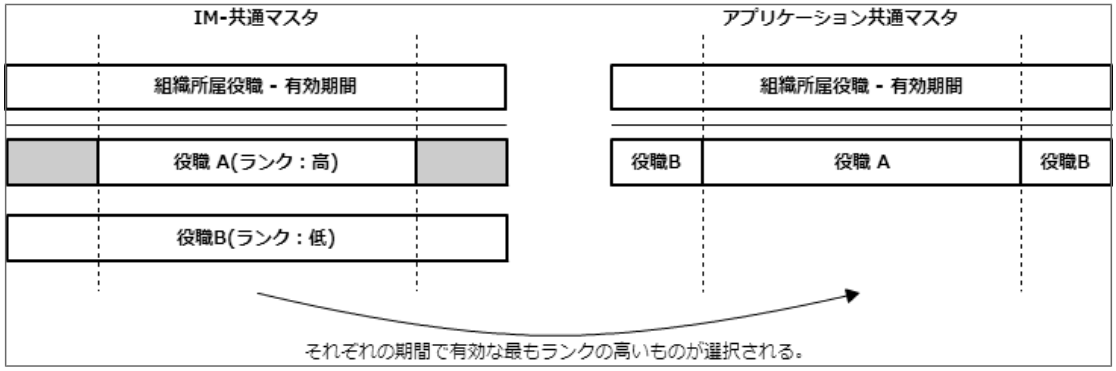
組織所属役職の同期

この組織所属役職のランクによる紐付けは、IM-共通マスタにおいて役職のランクの更新が起きた場合にも逐次反映されます。



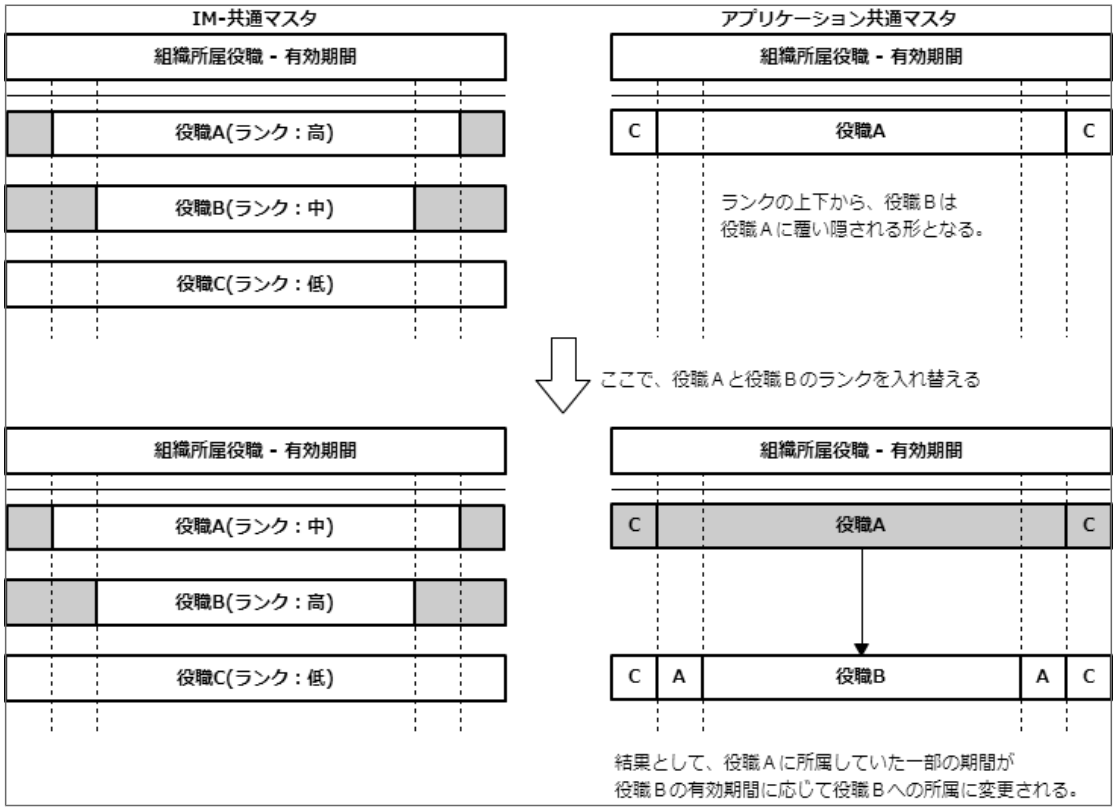
役職のランクの更新した場合

また、所属である為に「*所属*」で記述されている制限が適応されます。



組織所属役職と役職の有効期間

以上から、組織所属役職はIM-共通マスタの「所属」制限と「ランク」による優先度によって最終的に決定されることになります。



役職の有効期間とランクによる組織所属役職の更新例

同期処理を行わないようにする

「互換基本機能」（モジュール）を含めた場合、標準ですべてのテナントに対して同期処理が行われます。
すべてのテナントに対して同期処理を行わないようにするためは、「共通マスタ同期無効化オプション」（モジュール）を含めて、デプロイしてください。

テナントごとに同期処理の実施有無を設定する

「互換基本機能」（モジュール）を含めた場合、標準ですべてのテナントに対して同期処理が行われます。
同期処理の実施有無をテナントごとに設定するためは、IM-Juggling で次の設定を行いWARファイルを作成し、デプロイしてください。

- IM-Juggling のプロジェクトに「plugin/jp.co.intra_mart.master.standard.sync_7.2.x.groups」フォルダを作成し、そのフォルダ内に以下のような plugin.xml を配置してください。
  各拡張ポイントの accessor の groups属性 には同期を行う対象のテナントをカンマ区切りで記載してください。
  以下は「default」テナントでのみ同期処理を行う場合の設定例です。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<plugin>
  <extension
    point="jp.co.intra_mart.foundation.master.accessor.company" >
    <accessor
      name="standard.sync"
      id="jp.co.intra_mart.standard.sync"
      version="7.2.1"
      enable="true"
      groups="default"
      rank="100" >
      <listener class="jp.co.intra_mart.system.master.sync.SynchronousCompanyListener" />
    </accessor>
  </extension>

  <extension
      point="jp.co.intra_mart.foundation.master.accessor.public_group" >
    <accessor
      name="standard.sync"
      id="jp.co.intra_mart.standard.sync"
      version="7.2.1"
      enable="true"
```

```
      groups="default"
      rank="100" >
      <listener class="jp.co.intra_mart.system.master.sync.SynchronousPublicGroupListener" />
    </accessor>
  </extension>

  <extension
      point="jp.co.intra_mart.foundation.master.accessor.user" >
    <accessor
      name="standard.sync"
      id="jp.co.intra_mart.standard.sync"
      version="7.2.1"
      enable="true"
      groups="default"
      rank="100" >
      <listener class="jp.co.intra_mart.system.master.sync.SynchronousUserListener" />
    </accessor>
  </extension>

  <extension
    point="jp.co.intra_mart.foundation.master.accessor.private_group" >
    <accessor
      name="standard.sync"
      id="jp.co.intra_mart.standard.sync"
      version="7.2.1"
      enable="true"
      groups="default"
      rank="100" >
      <listener class="jp.co.intra_mart.system.master.sync.SynchronousPrivateGroupListener" />
    </accessor>
  </extension>

  <extension
    point="jp.co.intra_mart.foundation.master.backup" >
    <accessor
      name="standard.sync"
      id="jp.co.intra_mart.standard.sync"
      version="7.2.1"
      enable="true"
      groups="default"
      rank="100" >
      <backuper category="standard"
class="jp.co.intra_mart.system.datastore.common.backup.impl.StandardCompanyBackuperImpl" />
      <backuper category="standard"
class="jp.co.intra_mart.system.datastore.common.backup.impl.StandardPublicGroupBackuperImpl" />
      <backuper category="standard"
class="jp.co.intra_mart.system.datastore.common.backup.impl.StandardUserBackuperImpl" />
    </accessor>
  </extension>
</plugin>
```

注意
本機能は intra-mart Accel Platform 2015 Winter(Lydia) 以降で利用できます。

注意
プラグインの仕様については、「 プラグイン仕様書 」を参照してください。

ドキュメントワークフロー(BPW)

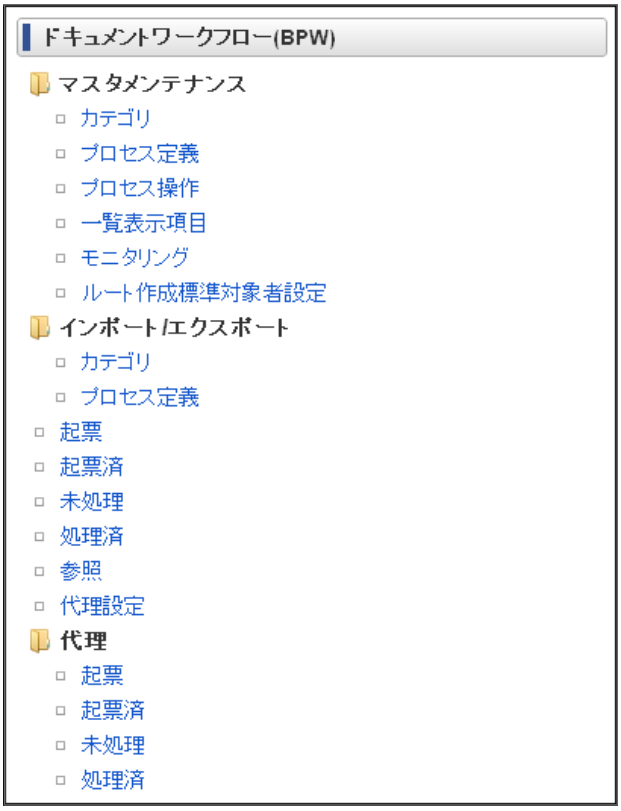
項目

- メニューについて
- 認可設定
- 設定ファイルについて
- メールテンプレート
  - BPWの通知メールにショートカットURLを付与する
- コンテンツの配置について
- 全文検索（IM-ContentsSearch）

メニューについて

メニューは「ドキュメントワークフロー(BPW)」メニューグループに登録されています。

デフォルトではサイトマップより各画面にアクセスできます。



認可設定

- 認可用ロールについて

  互換モジュールを利用して、移行を行うと、認可用にロールとして以下のものが作成されます。

  - **[BPW管理者]** ロール(bpwsuper)
    ドキュメントワークフロー(BPW)のメンテナンスを行うためのロールとして使用します。
    すでに同じロールIDが存在する場合は、上書きします。
  - **[BPWユーザ]** ロール(bpwuser)
    ドキュメントワークフロー(BPW)で、申請および承認を行うためのロールとして使用します。
    すでに同じロールIDが存在する場合は、上書きします。

- 各画面の認可

  デフォルトとしてメンテナンス画面へのアクセス認可にBPW管理者およびテナント管理者ロールが設定されています。
  また、申請・承認画面などへのアクセス認可にBPWユーザおよびテナント管理者ロールが設定されています。
  アカウントに対して、各種ロールを付与することで、利用できるようになります。

デフォルトでの商品マスタのメンテナンス画面への認可設定

- 「ドキュメントワークフロー(BPW)」メニューグループの認可

デフォルトとして「ドキュメントワークフロー(BPW)」メニューグループへのアクセス認可にBPW管理者、BPWユーザおよびテナント管理者ロールが設定されています。
アカウントに対して、各種ロールを付与することで、利用できるようになります。

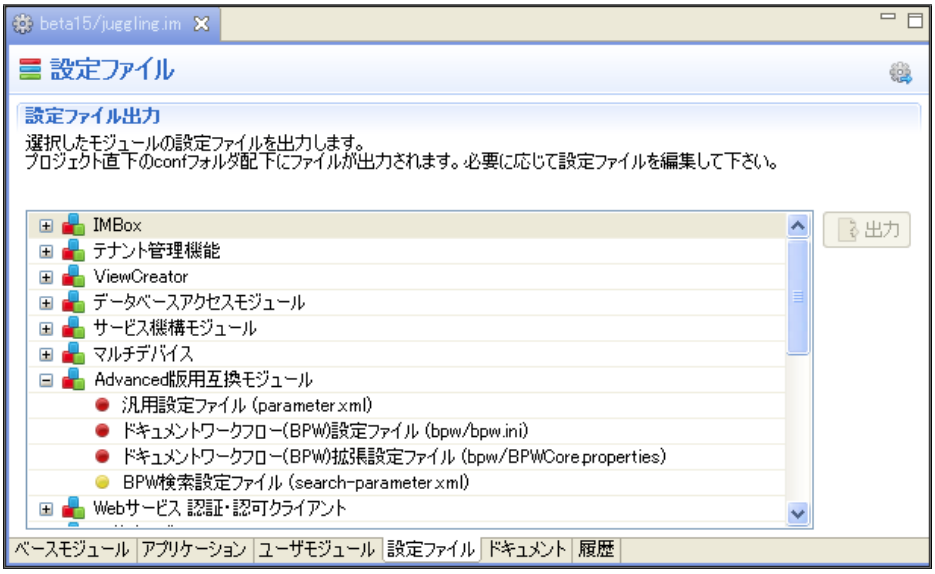
デフォルトでの「ドキュメントワークフロー(BPW)」メニューグループへの認可設定

> **コラム**
>
> デフォルトの認可設定は、設定を強制するものではありません。
> 利用しやすいように自由にカスタマイズを行ってください。

設定ファイルについて

ドキュメントワークフロー(BPW)の設定ファイルは IM-Juggling で設定を変更します。

- bpw.ini
- BPWCore.properties
- search-parameter.xml



メールテンプレート

intra-mart Accel Platform では アクセス時のURL指定方式が変更となっております。

上記の理由により、承認・差し戻しなどで送信されるメールのテンプレートを修正する必要があります。

各種メールテンプレートは、 **%PUBLIC_STORAGE_PATH%/bpw/mail_template/** フォルダの言語フォルダ以下に存在します。

各種メールテンプレートを以下のように修正します。

```
%hp%lg.portal
 ↓
%hp
```

> コラム
>
> 最新バージョンでは、%hp%lg.portal の状態でも動作します。

BPWの通知メールにショートカットURLを付与する

intra-mart Accel Platform でショートカットURLを付与する場合は、各種メールテンプレートを以下のように修正します。

```
%hp%lg.portal
 ↓
%hp%lg.portal?im_shortcut=%si
 または
%hpcompatible/shortcut/%si
```

> コラム
>
> 送信された通知メールから上記のURLにアクセスした場合、ショートカットIDに紐づいているページはiFrame内に表示されます。
>
> 上記のどちらのURL表記を利用しても同じ動作をしますが、URL表記を互換する意味として *%hp%lg.portal?im_shortcut=%si* の利用をお勧めします。

コンテンツの配置について

ドキュメントワークフロー(BPW)で利用するコンテンツファイルは、そのままでは動作しません。

intra-mart Accel Platform では、表示するページに自動的にヘッダおよびフッタが挿入されますので、コンテンツに対してヘッダおよびフッタが挿入されないように設定が必要です。

以下の手順でコンテンツファイルを配置し、設定を行います。

1. IM-Juggling で作成されたwarファイル内にコンテンツを配置します。
   - スクリプト開発モデルのコンテンツは **WEB-INF/jssp/src** 配下に配置してください。
   - JavaEE開発モデルのコンテンツは それぞれのフォルダに配置してください。
2. IM-Juggling で作成されたwarファイル内 **WEB-INF/conf/theme-no-theme-path-config** フォルダに一意な名称のxmlファイルを作成します。
3. 作成したxmlに対して以下のように記述します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<theme-no-theme-path-config
   xmlns="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config theme-no-theme-path-config.xsd ">
 <path>/＊＊＊＊.service</path>
 <path>＊＊＊＊/＊＊＊＊/＊＊＊＊</path>
</theme-no-theme-path-config>
```

   <path>タグには、すべてのコンテンツのパスを指定します。

   - JavaEE開発モデルの場合は サービスフレームワークのパス /＊＊＊＊.service
   - スクリプト開発モデルの場合は ページのパス ＊＊＊＊/＊＊＊＊/＊＊＊＊ (拡張子なし)

   また、<path>タグには、正規表現が利用可能です。

全文検索（IM-ContentsSearch）

IM-ContentsSearchモジュールを利用することで、IM-ContentsSearchの全文検索機能でドキュメントワークフロー(BPW)のコンテンツを検

索することができるようになります。
IM-ContentsSearchのセットアップ方法については、「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド 」 - 「 IM-ContentsSearch 」を参照してください。

検索対象となる案件は完了案件のみです。

ドキュメントワークフロー(BPW)のコンテンツの索引を作成するためのジョブ・ジョブネットの情報については、「 ジョブ・ジョブネットリファレンス 」を参照してください。
ドキュメントワークフロー(BPW)の索引作成に関するジョブ・ジョブネットは以下になります。

- ジョブ
  - [互換] 削除ドキュメントワークフロークローラ
  - [互換] 差分ドキュメントワークフロークローラ
  - [互換] 再作成ドキュメントワークフロークローラ
- ジョブネット
  - 削除クローリング
  - 差分クローリング
  - 再作成クローリング

項目

- AccessControllerと同等の機能を実現する
- intra-mart Web Platform で作成されたページを表示する

intra-mart Web Platform で提供されていた同等の機能を実現する方法やその他互換にかかわる開発テクニックをご紹介します。

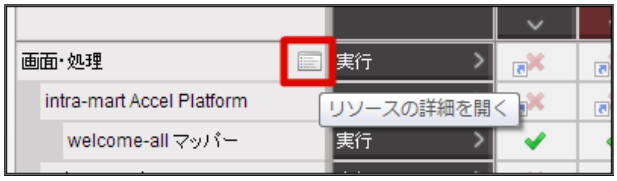
AccessControllerと同等の機能を実現する

intra-mart Web Platform で提供されていたAccessControllerと同等の機能を実現する方法について解説します。

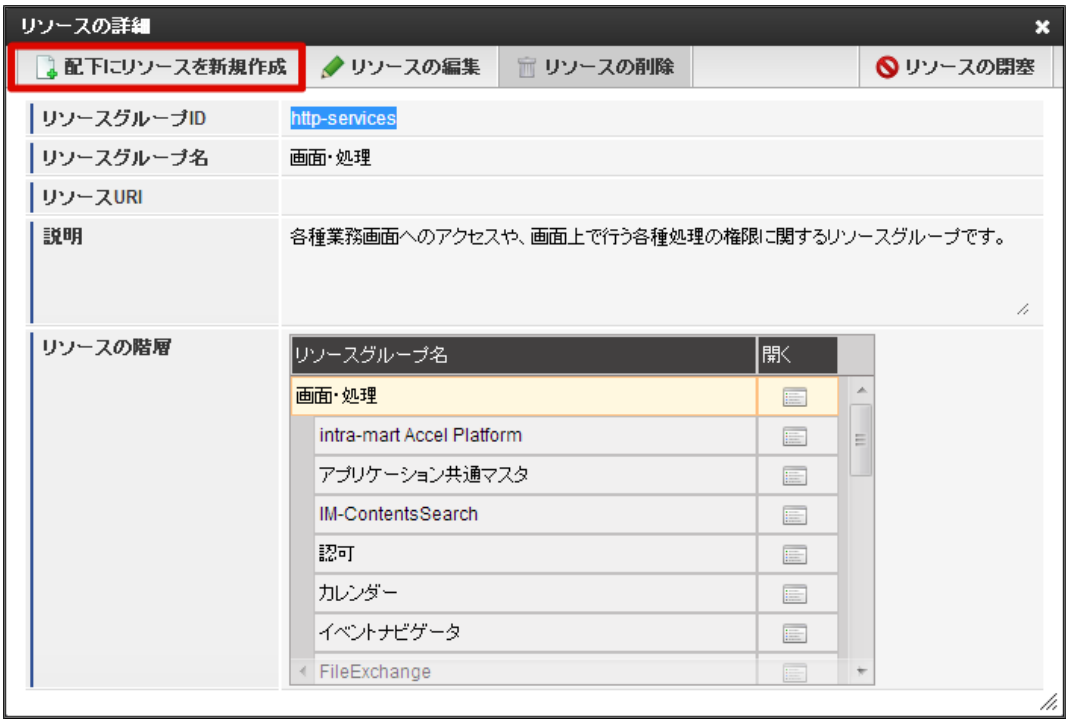
認可リソースと<imAuthz>タグを用いて実現します。

アクセス権を設定するための認可リソースの作成

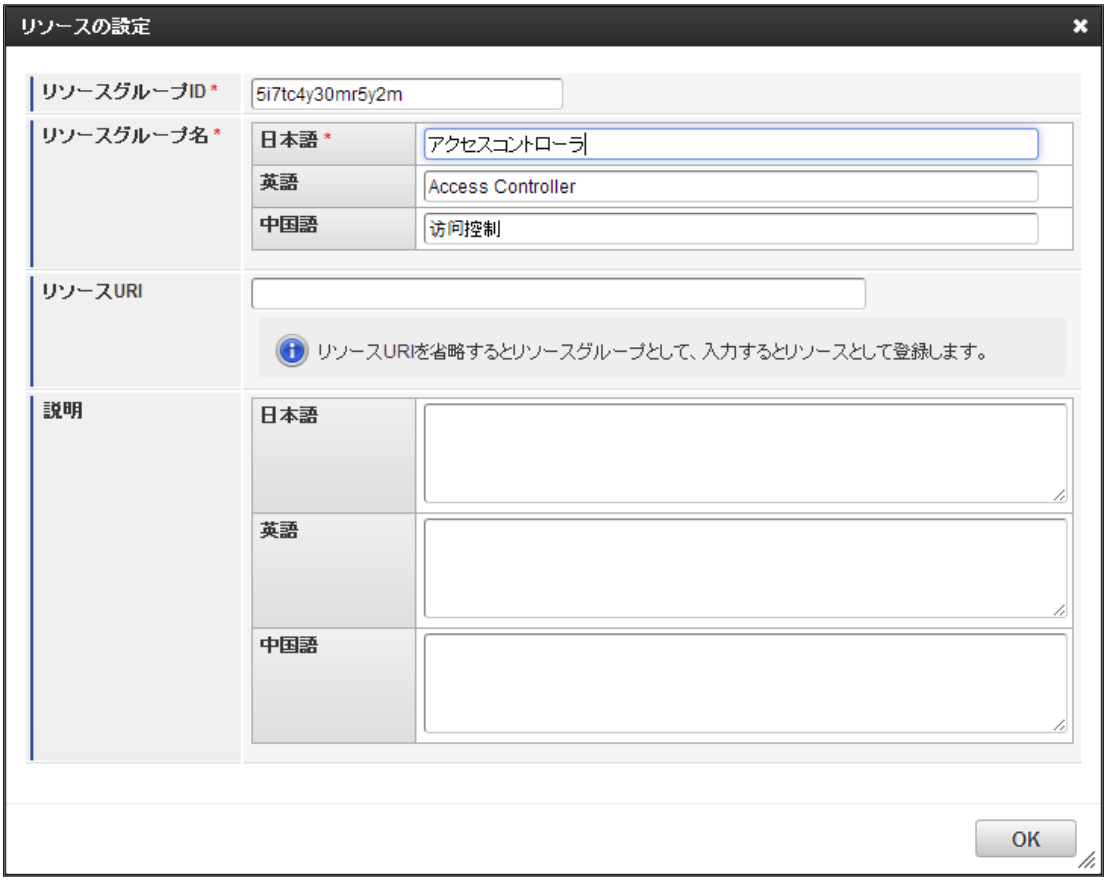
1. 「サイトマップ」-「テナント管理」- 「認可」をクリックします。
2. 「権限設定を開始する」をクリックします。
3. 画面左側「リソース」の「画面・処理」をポイントし、右に表示されるアイコンをクリックします。
   「リソース詳細」ダイアログが表示されます。



4. AccessControllerの同等機能で利用する認可リソースグループを作成します。
   1. 「リソース詳細」ダイアログで、 「配下にリソースを新規作成」をクリックします。



   2. 「リソース設定」ダイアログで、 認可リソースグループを作成します。
      リソースURIは入力する必要はありません。

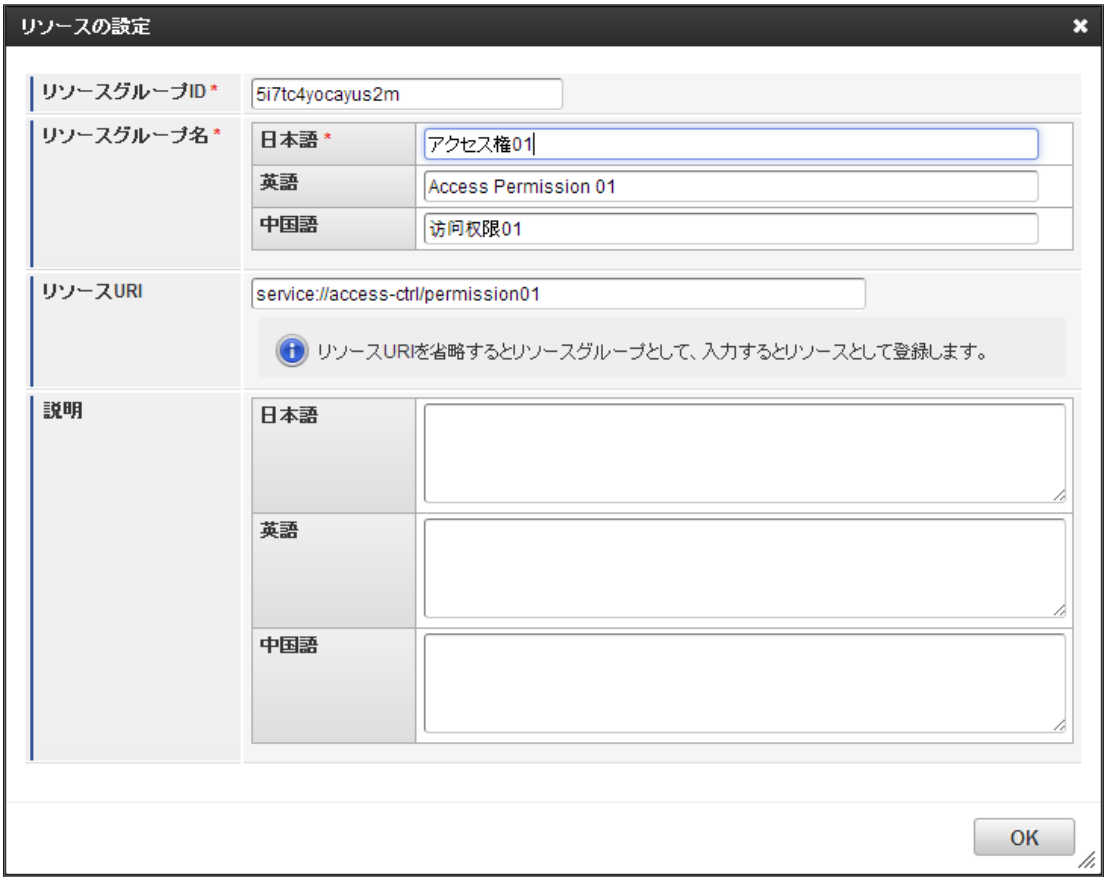


5. 作成した認可リソースグループ（アクセスコントローラ）にアクセス権のキーとなる認可リソースを作成します。

   1. 作成した認可リソースグループのリソース詳細を表示します。

   2. 「リソース詳細」ダイアログで、 「配下にリソースを新規作成」をクリックします。

   3. 「リソース設定」ダイアログで、 認可リソースを作成します。
      リソースURIには *service://********* 形式で記述してください。
      リソースURIは画面にて表示・非表示制御用のアクセス権のキーとして利用します。



> **注意**
> - リソースURIは システム一意である必要があります。
> - リソースURIは *service://* の第一階層目はオリジナルの ID にする必要があります。 （例） access-ctrl など

6. 作成した認可リソースに対して、必要な権限を設定します。
7. 「権限設定を終了する」をクリックします。

> **コラム**
> 画面で利用する 認可リソースは、既存のものを利用していただいても構いません。
> 表示・非表示制御として、妥当である認可リソースであれば、共有して利用できます。
>
> ただし、画面作成時に利用する<imAuthz>タグで、利用する認可リソースのアクション（action属性）を適切に指定してください。
> 「画面・処理」でのアクション（実行）は、 **execute** となります。

認可リソースで表示制御を行う画面の作成

認可リソースのアクセス権に基づいて、表示・非表示を行うタグを画面に記述します。
アクセス権判定を行う認可リソースは、先ほど作成した *service://access-ctrl/permission01* を利用します。

- スクリプト開発モデル

```
<imart type="imAuthz" uri="service://access-ctrl/permission01" action="execute">
 アクセス権があるユーザに表示されるエリアです。
</imart>

<imart type="imAuthz" uri="service://access-ctrl/permission01" action="execute" negative>
 アクセス権がないユーザに表示されるエリアです。
</imart>
```

- Java開発モデル

```
<%@ taglib prefix="imTenant" uri="http://www.intra-mart.co.jp/taglib/im-tenant" %>

<imTenant:imAuthz uri="service://access-ctrl/permission01" action="execute">
 アクセス権があるユーザに表示されるエリアです。
</imTenant:imAuthz>

<imTenant:imAuthz uri="service://access-ctrl/permission01" action="execute" negative="<%= Boolean.TRUE %>">
 アクセス権がないユーザに表示されるエリアです。
</imTenant:imAuthz>
```

注意
<imAuthz>タグのnegative属性は 2013 Autumn以降利用可能となります。

intra-mart Web Platform で作成されたページを表示する

intra-mart Web Platformで作成されたページ（以下、互換ページと称します）を表示する方法を解説します。

互換ページは、 intra-mart Accel Platform のテーマの仕組みに対応していません。
また、 intra-mart Accel Platform の認可についても考慮された作りにはなっていません。

互換ページを intra-mart Accel Platform で表示させるためには、表示用途によって以下の修正および設定が必要となります。

- 対象となる互換ページすべてに対して、テーマを適用しない設定が必要です。
- メニューに登録する互換ページはルーティングテーブルへの登録が必要です。
  ルーティングテーブルへ登録された互換ページは intra-mart Accel Platform の認可機構が利用できます。
  また、ルーティングテーブルへ登録したURLに対しても、テーマを適用しない設定が必要です。
- 互換ページをメニューに登録する場合は、ルーティングテーブルへの登録したURLを指定し、かつiframeに表示するように登録する必要があります。
  これは、 intra-mart Accel Platform のテーマを利用しつつ、互換ページに対してはテーマを適用しないようにするために必要となります。

互換ページ対してテーマを適用しないようにする

互換ページは、 intra-mart Accel Platform のテーマの仕組みに対応していないので、テーマを適用しない設定が必要となります。

- スクリプト開発モデル
  IM-Juggling では、プロジェクトルート/conf/theme-no-theme-path-configに **{任意のファイル名}.xml** でファイルを作成します。

  スクリプト開発のパスを指定する場合は、先頭に **‘ / ‘**（スラッシュ）を付けずに指定します。

  （例） **sample/v72/main.js** に対する設定は **<path>sample/v72/main</path>** となります。

  また、設定に正規表現が利用できます。

  （例） **sample/v72** 配下すべてのjsに対しての設定は **<path regex=”true” >sample2/v72/.*</path>** となります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<theme-no-theme-path-config
   xmlns="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config theme-no-theme-path-config.xsd ">
 <path>sample/v72/main</path>
 <path regex="true" >sample2/v72/.*</path>
</theme-no-theme-path-config>
```

- Java開発モデル （IM-JavaEE Frameworkを利用したページ）
  IM-Juggling では、プロジェクトルート/conf/theme-no-theme-path-configに **{任意のファイル名}.xml** でファイルを作成します。

  Java開発のパスを指定する場合は、先頭に **‘ / ‘**（スラッシュ）を付けた状態で指定します。

（例） **sample-main.service** に対する設定は **<path>/sample-main.service</path>** となります。

また、設定に正規表現が利用できます。

（例） **sample2-＊＊＊.service** のような、アプリケーションIDがsample2のすべてのページに対しての設定は **<path regex="true" >/sample2\-.+\.service</path>** となります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<theme-no-theme-path-config
   xmlns="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config theme-no-theme-path-config.xsd ">
 <path>/sample-main.service</path>
 <path regex="true" >/sample2\-.+\.service</path>
</theme-no-theme-path-config>
```

注意
テーマ設定ファイルの<path>タグのregex属性は 2013 Summer以降利用可能となります。

コラム

warファイルに直接作成する場合は、WEB-INF/conf配下の theme-no-theme-path-config ディレクトリにファイルを作成します。

テーマを適用しない設定ファイルの詳細は「設定ファイルリファレンス テーマの適用方法設定 NoThemeBuilder」を参照してください。

互換ページをメニューに登録できるようにする

互換ページをメニューに登録するためには、ルーティングテーブルへの登録が必要となります。

- スクリプト開発モデル
  IM-Juggling では、プロジェクトルート/conf/routing-jssp-configに **{任意のファイル名}.xml** でファイルを作成します。

  スクリプト開発のパスを指定する場合は、先頭に **‘ / ‘**（スラッシュ）を付けた状態で指定します。

  （例） **sample/v72/main.js** に対する設定は **<file-mapping path="/sample_v72_main" page="sample/v72/main">** となります。
  ‘ / ‘（スラッシュ）を **‘ _ ‘**（アンダースコア）に変更して登録していますが、これは、互換ページがコンテキストパスをベースに表示されるように作成されているため、 intra-mart Accel Platform においてもコンテキストパスをベースに表示されるようにしています。

  また、認可リソースの登録が必要です。
  認可リソースの登録は「テナント管理」-「認可」の画面より作成します。

  以下の例では **service://sample/main** というリソースと紐付をおこないます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<routing-jssp-config
xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/routing-jssp-config" xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/routing-jssp-config routing-jssp-config.xsd ">
  <file-mapping path="/sample_v72_main" page="sample/v72/main">
     <authz uri="service://sample/main" action="execute" />
  </file-mapping>
</routing-jssp-config>
```

コラム

sample/v72/main.js に対する設定を **<file-mapping path="/sample/v72/main" page="sample/v72/main">** といったように
'/'（スラッシュ）で区切った設定を行う場合は、動作するベースパスが異なるため、対象のページに対して以下のコードを追加する必要があります。

```
<html>
 <head>
   <title></title>
   <IMART type="include" page="im_compatible_core/parts/base_href"></IMART>
   <IMART type="imDesignCss"></IMART>
...
```

コラム

スクリプト開発でのルーティング設定ファイルの詳細は「設定ファイルリファレンス スクリプト開発モデルルーティング設定」を参照してください。

さらに、ルーティングテーブルに登録したURLに対しても、テーマが適用されないようにします。

IM-Juggling では、プロジェクトルート/conf/theme-no-theme-path-configに **{任意のファイル名}.xml** でファイルを作成します。

ルーティングテーブルに登録したURLを指定する場合は、先頭に **'/'**（スラッシュ）を付けた状態で指定します。

（例） **/sample_v72_main** に対する設定は **<path>/sample_v72_main</path>** となります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<theme-no-theme-path-config
   xmlns="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config"
      xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
         xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/theme/theme-no-theme-path-config theme-no-theme-path-config.xsd ">
 <path>/sample_v72_main</path>
</theme-no-theme-path-config>
```

- Java開発モデル （IM-JavaEE Frameworkを利用したページ）
  IM-Juggling では、プロジェクトルート/conf/routing-service-configに **{任意のファイル名}.xml** でファイルを作成します。

  Java開発のパスを指定する場合は、先頭に **'/'**（スラッシュ）を付けた状態で指定します。

  （例） **sample-main.service** に対する設定は **<service-mapping path="/sample-main.service" application="sample" service="main">** となります。

  また、認可リソースの登録が必要です。
  認可リソースの登録は「サイトマップ」-「テナント管理」-「認可」の画面より作成します。

  以下の例では **service://sample/main** というリソースを登録します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<routing-service-config
  xmlns="http://www.intra-mart.jp/router/routing-service-config"
  xmlns:xsi="http://www.w3.org/2001/XMLSchema-instance"
  xsi:schemaLocation="http://www.intra-mart.jp/router/routing-service-config routing-service-config.xsd ">

  <service-mapping path="/sample-main.service" application="sample" service="main">
    <authz uri="service://sample/main" action="execute" />
  </service-mapping>
</routing-service-config>
```

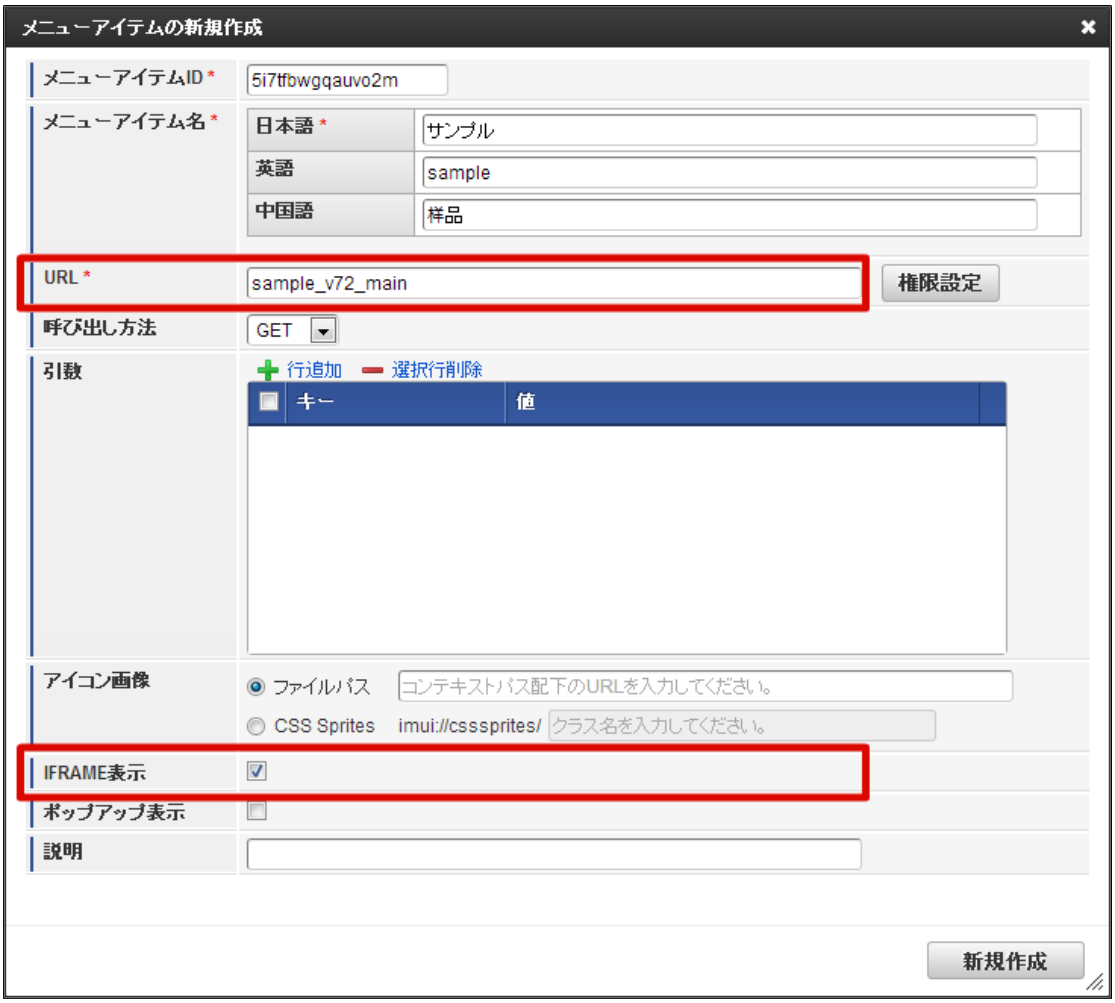
> コラム
>
> java開発でのルーティング設定ファイルの詳細は「設定ファイルリファレンス IM-JavaEE Frameworkルーティング設定」を参照してください。

> コラム
>
> warファイルに直接作成する場合は、WEB-INF/conf配下のrouting-jssp-config または routing-service-config ディレクトリにファイルを作成します。

互換ページをメニューに登録する

互換ページをメニューに登録するためには、「互換ページをメニューに登録できるようにする」で行ったURLを指定する必要があります。

IFRAME表示にチェックします。



共通マスタ拡張同期インポートI型

項目

- 概要
- 拡張インポートについて
  - 拡張インポートの位置づけ
  - 標準インポートとの対比
- 想定する利用パターン
  - インポート可能な期間の例
  - 想定する利用パターンの例
  - チェックリスト
- 使用方法
  - 設定ファイルとcsv ファイル
  - バックアップ
  - インポートの実行
- 制限事項
  - csv インポートのみ対応しています
  - 分類は対象外です
  - IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタの同期がとれている必要があります
  - インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります
  - 関連するエンティティの復帰処理を行いません
  - 役職のランク変更について
- エラーメッセージ

概要

共通マスタ拡張同期インポートI型（以下 拡張インポートと称します）は、IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタへのインポートを行うジョブを提供します。
標準のIM-共通マスタインポートジョブの同期処理部分に制約をもうけることで簡略化することによりパフォーマンスの改善を図ったインポートです。
簡略化したことにより、使用するにあたっていくつかの制限事項があります。
本ドキュメントでは、共通マスタ拡張同期インポートI型の導入方法と使用方法について説明します。
また、使用する際の制限事項についても記述しています。
これらの制限を踏まえてインポートジョブを使用してください。

拡張インポートについて

拡張インポートの位置づけ

IM-共通マスタのユーザインポート、会社組織インポートのアプリ共通マスタへの同期処理の内容を検討し、想定する利用パターンで省くことのできる処理を省いて、同期処理を再作成しました。
利用できないパターンなどの制限や注意事項がありますが、その代わり処理時間が短くなっています。

標準インポートとの対比

以下は、標準インポートと拡張インポートの機能比較した表です。
拡張インポートのメリットは、標準インポートと比べて処理速度が速いことです。
デメリットはインポートデータに制限があることです。

項目	標準インポート	拡張インポート	備考
IM-共通マスタインポート	○	○	
アプリケーション共通マスタへの同期	○	○	
設定ファイル	○	○	標準と同じ設定ファイルを使用できます。
ファイルフォーマット	xml/csv	csv	標準と同じ csv ファイルを使用できます。

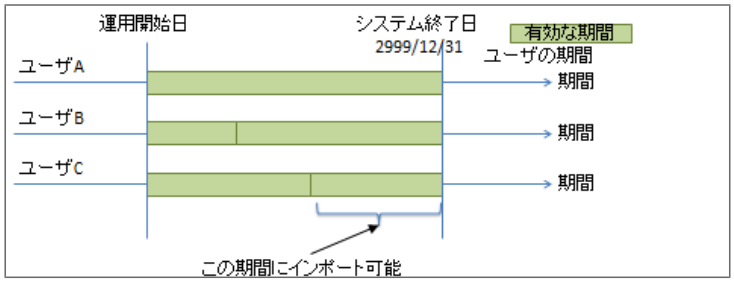
項目	標準インポート	拡張インポート	備考
分類のインポート	○	×	詳細は 「*分類は対象外です*」 を参照してください。
インポートデータの制限	制限なし	制限あり	詳細は 「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」、「*関連するエンティティの復帰処理を行いません*」、「*役職のランク変更について*」を参照してください。
処理時間	普通	速い	アプリケーション共通マスタへの同期の部分が速くなっています。

想定する利用パターン

拡張インポートジョブを適用できる典型的な運用は、定期的に IM-共通マスタのインポートジョブを実行し、IM-共通マスタのマスタメンテナンス画面からの操作は行っていない運用です。
この場合、インポートの対象期間と各エンティティの期間の制限を満たしているので、このインポートジョブを適用できます。
期間の制限については「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」を参照してください。

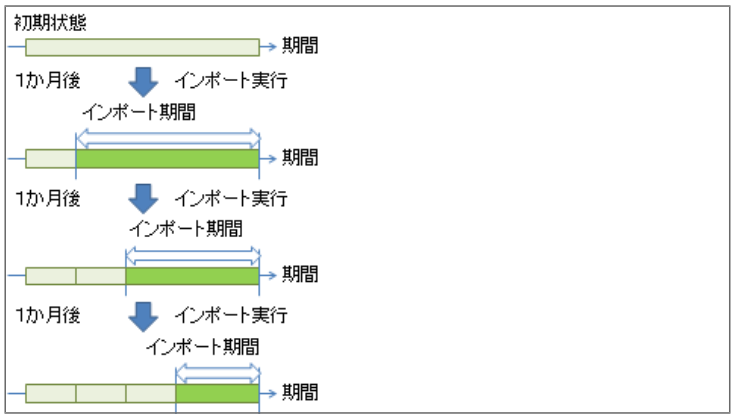
インポート可能な期間の例

以下の図は、システムにユーザ A、ユーザ B、ユーザ C がそれぞれの期間を持ち、そこにユーザインポートが可能な期間の例を表しています。
ユーザ A は運用開始日からシステム終了日まで期間は分割されてなく、ユーザ B、ユーザ C は分割されているとします。
この場合、インポート可能な期間はすべてのユーザの分割の日を含まないような期間です。



想定する利用パターンの例

以下の図は、定期的にインポートを行っている運用の例を表しています。
インポート終了日を固定して、インポート開始日は、前回のインポート開始日より後にずらしながらインポートしている利用パターンの例です。
このパターンであれば、簡単に「*インポート可能な期間の例*」で示したようなインポート可能な期間に合致させることができます。



チェックリスト

IM-共通マスタ、アプリケーション共通マスタの運用についてのチェックリストです。
以下の項目が全て「YES」の場合、この拡張インポートジョブを適用できます。

- インポートをcsv 形式で行っている。
- ユーザ分類、組織分類を使っていない。

- インポート前の状態で、IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタの同期がとれている。
- インポート期間と対象エンティティの期間が期間の条件を満たしている。
  期間の条件は、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」を参照してください。
- IM-共通マスタ上で無効状態(論理削除状態)のデータを有効化するインポートは行わない。
  有効化への変更については、「*関連するエンティティの復帰処理を行いません*」を参照してください。
- 役職インポートで役職のランクを変更しない。

使用方法

設定ファイルとcsv ファイル

設定ファイルとcsv ファイルの内容と配置場所は、IM-共通マスタの標準インポートの設定ファイル同じです。
同じファイルを共有しますので、標準インポートを実行する場合には注意してください。
「IM-共通マスタインポート・エクスポート仕様書」を参照し、設定ファイルとcsv ファイルを配置してください。

バックアップ

「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の「バックアップ 」を参考に、バックアップを行ってください。

インポートの実行

1. テナント管理者でログインします。
2. 「サイトマップ」-「テナント管理」-「ジョブネット設定」をクリックします。
3. ジョブネット一覧より「ユーザ拡張同期インポート I型」および「会社・組織拡張同期インポート I型」を選択して、ジョブを実行します。
   ユーザのインポートがある場合、「ユーザ拡張同期インポート I型」を先に実行してください。

制限事項

このインポートを実行するには、以下の制限があります。
インポートを実行する前に、以下の制限に違反していないことを確認してください。

csv インポートのみ対応しています

データファイルのフォーマットはcsv のみに対応しています。
xml には対応していません。
csv ですので、スナップショットインポートになります。

分類は対象外です

ユーザのインポートでは、ユーザ分類、ユーザ分類項目、ユーザ分類所属の同期は対象外です。
会社組織のインポートでは、組織分類、組織分類項目、組織分類所属の同期は対象外です。
分類をインポート、同期する場合には、標準のユーザインポート、会社組織インポートを使ってください。

IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタの同期がとれている必要があります

IM-共通マスタとアプリケーション共通マスタの同期がとれている状態でインポートを行ってください。

インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります

インポート前のエンティティの期間の開始日、または、終了日が、インポート対象期間内にある状態は対象外です。
インポート対象期間内にデータの期間の開始日、または、終了日がない状態であることを確認してください。
これに違反した状態でインポートしますと、データ不整合になります。
期間の条件の詳細については、「*期間の条件*」を参照してください。

（例） 定期的に IM-共通マスタのインポートを行う運用の場合

この場合、前回のインポート終了日からシステム終了日までは、それぞれのエンティティの期間の開始日、終了日は前回のインポート終了日、システム終了日になっていると思われますので、問題なくインポートできます。
ただし、画面からこの期間の操作(期間分割や開始日を未来方向に移動、終了日を過去方向に移動)をしますと、制限に違反した期間を作ることになりますので、注意してください。

期間の条件

「*想定する利用パターンの例*」で示したインポート可能な期間(一番後にある分割日からシステム終了日まで)が、想定している利用パターンですが、厳密なインポート可能な期間の判定条件は、以下になります。
インポート対象エンティティに関連する全ての期間がこの式を満たす必要があります。
このエンティティの期間はインポート前の状態の期間です。

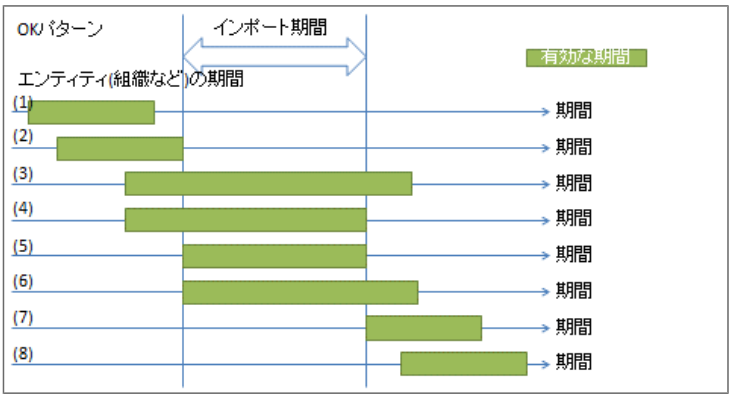
```
NOT (インポート期間.開始日＜エンティティ期間.開始日＜インポート期間.終了日
OR
インポート期間.開始日＜エンティティ期間.終了日＜インポート期間.終了日)
```

上記の条件式の具体例として、インポート可能な期間のパターンとインポート不可の期間のパターンを示します。

- **インポート可能な期間のパターン**

  以下の図に示すエンティティの期間は、期間の条件を満たすのでインポート可能です。

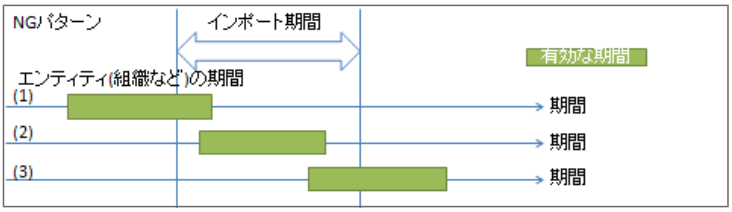
  (1)は、エンティティの期間がインポート期間より前にあるパターンです。
  (2)は、エンティティの期間がインポート期間より前にあり、エンティティ期間.終了日とインポート期間.開始日が一致するパターンです。
  (3)は、エンティティの期間がインポート期間を含むパターンです。
  (4)は、エンティティの期間がインポート期間を含み、エンティティ期間.終了日とインポート期間.終了日が一致するパターンです。
  (5)は、エンティティの期間がインポート期間と一致するパターンです。
  (6)は、エンティティの期間がインポート期間を含み、エンティティ期間.開始日とインポート期間.開始日が一致するパターンです。
  (7)は、エンティティの期間がインポート期間より後にあり、エンティティ期間.開始日とインポート期間.終了日が一致するパターンです。
  (8)は、エンティティの期間がインポート期間より後にあるパターンです。



- **インポート不可の期間**

  以下の図 に示す期間は、期間の条件を満たしていないのでインポート不可です。

  (1)は、エンティティ期間.終了日がインポート期間内にあるので、期間の条件を満たしていません。
  (2)は、エンティティ期間がインポート期間に含まれているので、期間の条件を満たしていません。
  (3)は、エンティティ期間.開始日がインポート期間内にあるので、期間の条件を満たしていません。



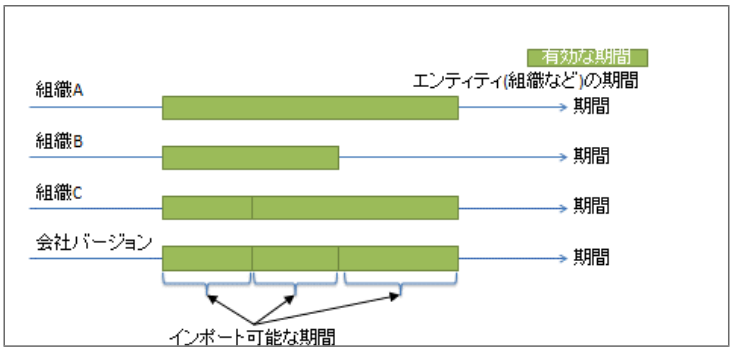
関連するデータの範囲

それぞれのインポートするエンティティに対する関連するデータは以下の通りです。

エンティティ	関連するデータの範囲
ユーザ	csv 上の全てのユーザに対して、期間の条件を満たす必要があります。
組織	csv 上の全ての組織と全ての会社の会社バージョンに対して、期間の条件を満たす必要があります。
内包	csv 上の全ての会社の会社バージョンと全ての内包する組織に対して、期間の条件を満たす必要があります。
役職	csv 上の全ての役職に対して、期間の条件を満たす必要があります。
所属(所属役職)	csv 上の全てのユーザと全ての組織と全ての所属に対して、期間の条件を満たす必要があります。 所属役職もある場合は、役職も期間の条件を満たす必要があります。エンティティ

組織のインポートの例

ここでは組織のインポートを例に説明します。
組織のインポートでは、組織と会社バージョンの全ての期間の開始日、終了日がインポート期間外でなければなりません。
言い換えると、インポート期間は、全ての組織、会社バージョンの開始日、終了日を含まないようにとる必要があります。



関連するエンティティの復帰処理を行いません

拡張インポートでは関連するエンティティの復帰処理を行わないので、関連するエンティティのcsv データも用意してインポートしてください。

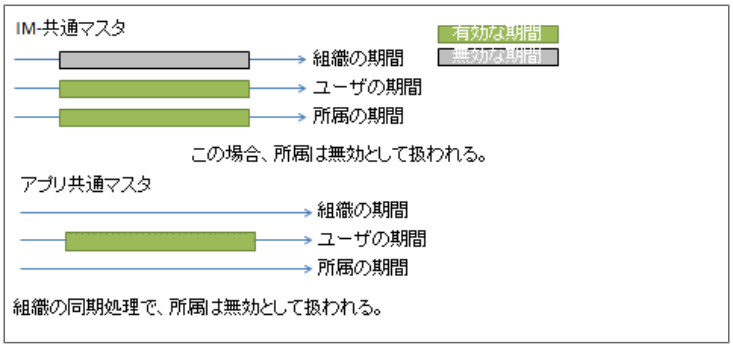
関連するエンティティの復帰処理について

標準インポートでは、IM-共通マスタ上で、無効(論理削除状態)だったエンティティをインポートで有効化するとき、それに関連するエンティティも有効化しています。
以下の表では、対象となるエンティティを復帰させた場合、関連するエンティティを復帰させる処理を行うかどうかを、標準のインポートでの同期処理と拡張インポートの同期のそれぞれに対して表しています。

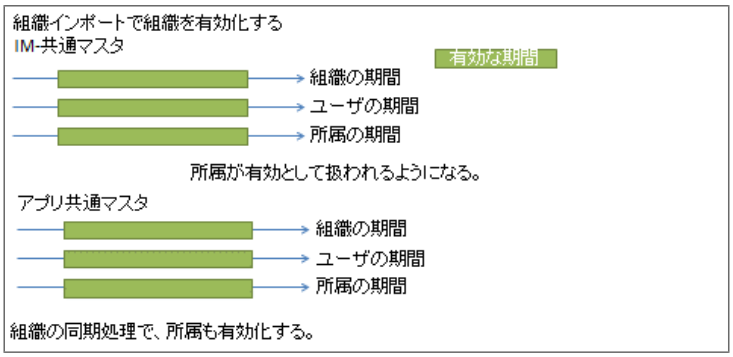
エンティティ	関連するエンティティ	標準同期処理	拡張インポートの同期処理
ユーザ	所属	復帰あり	復帰なし
組織(会社)	組織 内包 役職	復帰あり 復帰あり 復帰あり	復帰なし 復帰なし 復帰なし
組織	内包 所属	復帰あり 復帰あり	復帰なし 復帰なし
内包	なし	–	–
役職	所属(所属役職)	復帰あり	復帰あり
所属	所属役職	復帰あり	復帰あり

（例） 標準のインポートと同期処理における復帰

組織インポートで組織を有効化した場合、それに関連した所属も有効化して同期します。
標準のインポートの同期処理では、「インポート前の状態」に組織を有効化するインポートを行うと、以下の図になります。
組織が有効になったことにより、所属が有効として扱われ、組織の同期と共に、所属も有効にして登録しています。



組織インポート前の状態



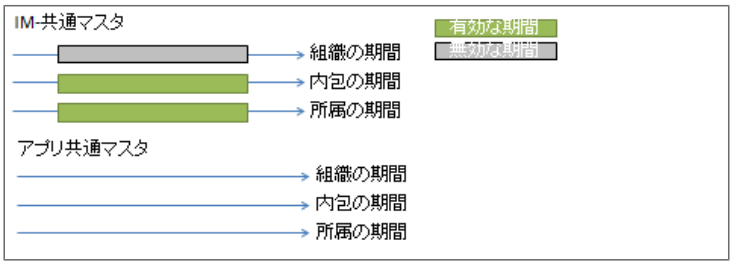
組織インポート後の状態

復帰処理への対応方法

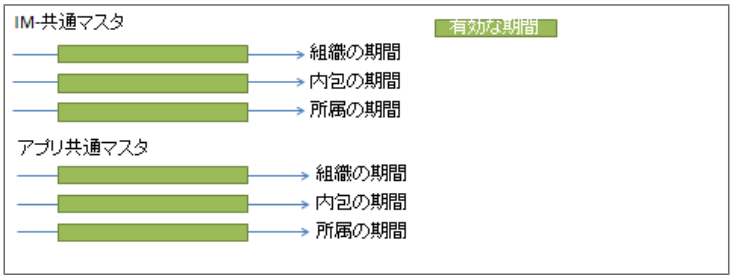
拡張インポートでは、「関連するエンティティの復帰処理について」の表で「復帰なし」となっているエンティティを無効から有効にする場合、それに関連するエンティティは復帰しません(有効になりません)。
復帰処理の代替として、関連するエンティティのcsv データを用意してインポートする必要があります。

（例） 組織を有効にする場合

組織を有効にする場合、その組織に関連する内包と所属のデータをcsv ファイルに追加して、同時にインポートします。
ここでは、「インポート前の状態」に組織を有効化のインポートを行い、「インポート後の状態」にするために用意するcsv データについて説明します。



インポート前の状態



インポート後の状態

組織を有効化すると、IM-共通マスタでは所属も有効化された状態になるので、アプリ共通マスタでも同じ状態にするために、対応する内包と所属のcsv データを用意します。
対象となる会社コード、組織コード、ユーザコードはそれぞれ、compA, deptA, userA とすると、用意するcsv データは以下になります。

- 組織csv データ

```
compA, compA, deptA, 100, false, (略)
```

- 内包csv データ

```
compA, compA, deptA, compA, false
```

- 所属csv データ

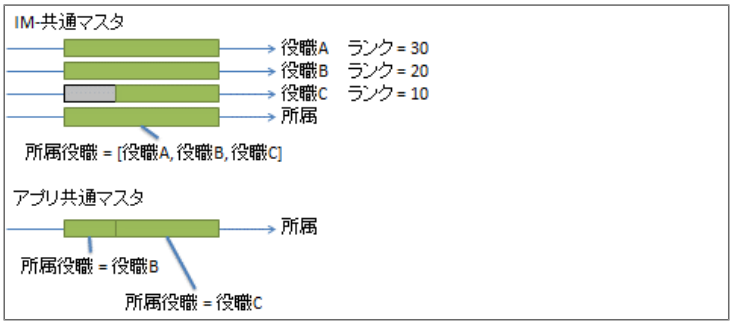
```
compA, compA, deptA, userA, false, false
```

明示的に組織deptA の内包、所属データも用意することにより、組織の復帰に伴う内包、所属の復帰に対応させます。

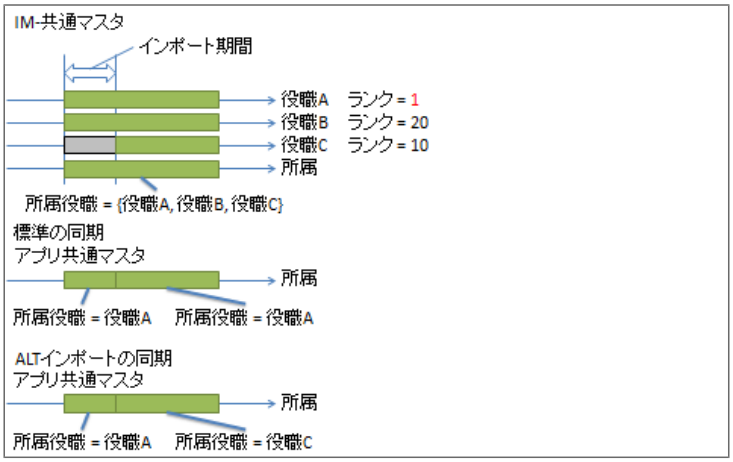
役職のランク変更について

拡張インポートでは、役職のランク変更に伴う、全期間の所属役職更新を行いません。
インポート期間内のみ所属役職を更新します。
役職のランク変更はIM-共通マスタの標準インポート、または、IM-共通マスタ画面を通して同期を行ってください。
標準の所属役職の同期については、「共通マスタ同期仕様」の「*会社組織 – 役職・組織所属役職*」を参照してください。
標準インポートと拡張インポートの違いは、役職のランクを変更して所属役職を更新するときに、インポート期間外の所属役職を更新するかどうかという点が異なっています。
標準インポートではインポート期間外(全期間)の所属役職も更新し、拡張インポートではインポート期間内の所属役職の期間のみを更新します。

（例） 役職のランク変更に伴う所属役職の更新の、標準の同期処理と拡張インポートの同期処理の違いについてある所属に、役職A, 役職B, 役職C の役職を持たせます(以下の図参照)。
役職A, 役職B, 役職C のランクをそれぞれ30, 20, 10 とします。
ランクが小さい方が優先度が高いランクで、アプリ共通マスタに同期するときは、優先度が最も高いランクの役職を所属役職に設定しています。



役職のインポートを行い、役職A のランクを30 から1 に変更します。
ランクは期間化されない情報(全ての期間で同一の情報)なので、インポート期間以外の所属役職にも影響します(以下の図参照)。
標準の同期では、インポート期間外の所属役職も更新しますが、拡張インポートの同期では、インポート期間内の所属役職のみ更新しています。
このため、画面から役職を更新する、または、標準の会社組織インポートで役職をインポートしてランクを変更してください。



エラーメッセージ

以下のエラーメッセージが発生した場合は、インポート対象データを見直してください。

- **ユーザの期間がインポート期間の前提条件に違反しています。インポート期間[], ユーザコード[], 期間[]**

  原因: このユーザコードのユーザが、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」の制限に違反しています。
  対応: インポート期間をこのユーザの期間より小さくとってください。

- **組織の期間がインポート期間の前提条件に違反しています。インポート期間[], 会社コード[], 組織コード[], 期間[]**

  原因: この会社コード、組織コードの組織が、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」の制限に違反しています。
  対応: インポート期間をこの組織の期間より小さくとってください。

- **会社バージョンの期間がインポート期間の前提条件に違反しています。インポート期間[], 会社コード[],期間[]**

  原因: この会社コードの会社バージョンが、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」の制限に違反しています。
  対応: インポート期間をこの会社バージョンより小さくとってください。

- **役職の期間がインポート期間の前提条件に違反しています。インポート期間[], 会社コード[], 役職コード[], 期間[]**

  原因: この会社コード、役職コードの役職が、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」の制限に違反しています。
  対応: インポート期間をこの会社バージョンより小さくとってください。

- **ユーザ所属の期間がインポート期間の前提条件に違反しています。インポート期間[], ユーザコード[],会社コード[], 組織コード[], 期間[]**

  原因: このユーザコード、会社コード、組織コードの所属が、「*インポート期間と対象エンティティの期間の制限があります*」の制限に違反しています。
  対応: インポート期間をこの所属より小さくとってください。

共通マスタ拡張同期インポートII型

項目

- 概要
- 拡張インポートについて
  - 拡張インポートの位置づけ
  - 標準インポートでの同期との対比
  - 一期間化対象のエンティティ
  - チェックリスト
- 準備
  - バックアップ
  - 初期状態生成
- 実行
  - バックアップ
  - 設定ファイル
  - エクスポート設定ファイル
  - インポート設定ファイル
  - 一部のエンティティのみ同期する例
  - インポートの実行
- 制限事項
  - アプリケーション共通マスタが一期間の状態になっていること
  - 関連するエンティティの復帰処理を行いません

概要

共通マスタ拡張同期インポートII型（以下 拡張インポートと称します）は、IM-共通マスタからアプリケーション共通マスタへの同期を行うジョブです。
アプリケーション共通マスタの履歴を削除することにより、同期の処理を簡略化し、それによりパフォーマンスの改善を図った同期処理です。
簡略化したことにより、使用するにあたっていくつかの制限事項があります。
拡張インポートの最も大きな制限は、アプリケーション共通マスタのユーザ、会社組織の期間を一期間化することです。
アプリケーション共通マスタのユーザ、会社組織の履歴情報を必要としない運用であれば適用できます。
詳しい制限については「*制限事項*」を参照してください。
本ドキュメントでは、拡張インポートの導入方法と使用方法について説明します。
また、使用する際の制限事項についても記述しています。
これらの制限を踏まえて拡張インポートを使用してください。

拡張インポートについて

拡張インポートは、IM-共通マスタのユーザと会社組織の情報をアプリケーション共通マスタへ同期させるジョブであり、標準の同期の代わりに使用します。
拡張インポートを使うことにより、IM-共通マスタへのインポート時間を短縮できます。
IM-共通マスタのインポートに時間がかかるなどの場合、この拡張インポートでの運用を検討してください。

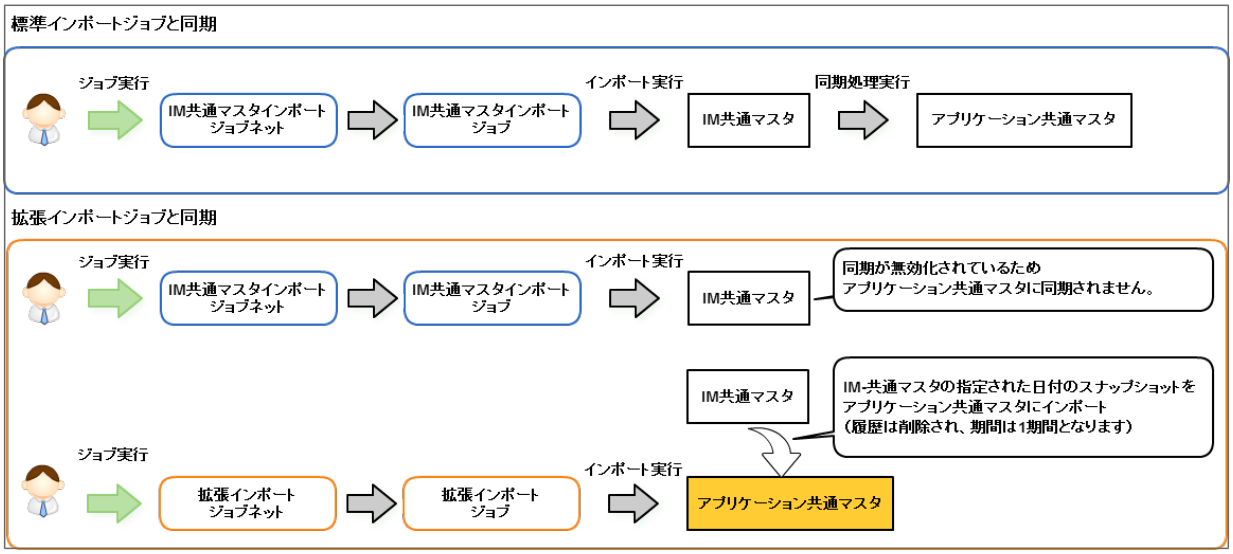
拡張インポートの位置づけ

IM-共通マスタからアプリ共通マスタへの同期を行うと長期間運用することにより期間データが増加した際、同期処理に時間がかかるようになっていきます。
このような場合の対応として、標準の同期処理の代わりに拡張インポートを利用することが候補になります。
この拡張インポートでは履歴を削除した状態で同期することにより、同期処理時間の短縮をしています。
アプリケーション共通マスタの履歴を削除するので、履歴を必要としているシステムではこの拡張インポートを適用できません。
アプリケーション共通マスタの履歴を削除した状態で運用してもシステムとして問題が無いのであれば、この拡張インポートを利用できます。

標準インポートでの同期との対比

標準インポートでは、IM-共通マスタのインポートジョブを実行すると、IM-共通マスタにデータをインポートしながらアプリケーション共通マスタへ同期します。

これに対して、拡張インポートを使う場合は、IM-共通マスタの標準インポートジョブでアプリケーション共通マスタへ同期をしないように設定して、IM-共通マスタへインポートします。
その後、拡張インポートジョブを使って、履歴を削除した状態のアプリケーション共通マスタへ同期処理を実行します。



以下は、標準インポートと拡張インポートの機能比較した表です。
拡張インポートのメリットは、標準の同期と比べて処理速度が速いことです。
デメリットはアプリケーション共通マスタを一期間にして履歴を持つことができない制限があることです。

項目	標準インポート	拡張インポート	備考
IM-共通マスタインポート中に同期を行う	○	×	標準の同期では、IM-共通マスタインポート中に同期処理を行っていましたが、拡張インポートでは、IM-共通マスタインポート後にの別のジョブで同期を実行させます。
アプリケーション共通マスタの期間化	○	×	拡張インポートジョブでは、IM-共通マスタの指定した日付のスナップショットの状態を同期します。 アプリケーション共通マスタは一期間のみ保持します。
設定ファイル	○	×	拡張インポートジョブ用の設定ファイルを使用します。
処理時間	普通	速い	拡張インポートのアプリケーション共通マスタは、期間を一つしか持たないので、同期処理にかかる時間が短くなっています。

一期間化対象のエンティティ

この拡張インポートでは、アプリケーション共通マスタのユーザと会社組織を一期間化します。
一期間化するエンティティとテーブルは以下の通りです。
太字のテーブルが一期間化によりデータが変更、削除されるテーブルです。

エンティティ	テーブル
ユーザ	b_m_user_b **b_m_user_t** **b_m_user_t_i**
組織	b_m_department_b **b_m_department_t** **b_m_department_t_i**
会社構成バージョン	**b_m_company_version_b**
組織内包	**b_m_department_inclusion_b**
役職	b_m_company_post_b **b_m_company_post_t** **b_m_company_post_t_i**

エンティティ	テーブル
組織所属	b_m_department_attach_b **b_m_department_attach_t**
主所属	b_m_department_main_b **b_m_department_main_t**
組織分類所属	b_m_company_category_b **b_m_company_category_t**

チェックリスト

IM-共通マスタ、アプリケーション共通マスタの運用についてのチェックリストです。
以下の項目が全て「YES」の場合、この拡張インポートを適用できます。

- アプリケーション共通マスタの履歴情報を必要としない。
- IM-共通マスタ上で無効状態(論理削除状態)のデータを有効化するインポートは行わない。
  有効化への変更については、「*関連するエンティティの復帰処理を行いません*」を参照してください。

準備

バックアップ

「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の「バックアップ 」を参考に、バックアップを行ってください。

初期状態生成

アプリケーション共通マスタのユーザと会社組織を一期間化するために、「一期間ユーザの初期状態生成 II型」および「一期間会社組織の初期状態生成 II型」ジョブを実行します。
デフォルトでは、現在日付を含む期間だけ残して他は削除します。
設定ファイルに対象日付を記述することにより残す期間を指定できます。
一期間化すると、期間は開始日が1900/01/01、終了日が3000/01/01 になります。

設定ファイル

設定ファイルに対象日付を記述することにより、一期間化する期間を決定することができます。
設定ファイルの配置場所とファイル名は、

```
%PUBLIC_STORAGE%/im_master/config/altsync/oneterm_initializer.properties
```

です。
対象日付は

```
target_date=2000/01/01
```

のように、yyyy/MM/dd 形式で記述してください。
target_date が無い場合は、現在日付で一期間化します。

初期状態生成の実行

1. テナント管理者でログインします。
2. 「サイトマップ」-「テナント管理」-「ジョブネット設定」をクリックします。
3. ジョブネット一覧より「一期間ユーザの初期状態生成 II型」および「一期間会社組織の初期状態生成 II型」を選択して、ジョブを実行します。
   「一期間ユーザの初期状態生成 II型」を先に実行してください。

実行

IM-共通マスタからアプリケーション共通マスタへの同期を実行する前に、アプリケーション共通マスタの期間は一期間化された状態にいる必要があります。
この拡張インポートを初めて実行する場合は、同期を実行する前に初期状態生成ジョブを実行し、一期間化します。
初期状態生成については、「*初期状態生成*」を参照してください。
バックアップを取ってから、拡張インポートを実行してください。

バックアップ

「 intra-mart Accel Platform セットアップガイド」の「バックアップ 」を参考に、バックアップを行ってください。

設定ファイル

設定ファイルにより、IM-共通マスタのどの日にちの情報を同期するか、同期するデータの種類(組織、役職、所属など)を選択することができます。
デフォルトの設定では、同期する日にちは現在日付、同期するデータの種類は全て(ユーザ、組織、内包、役職、所属、組織分類所属)になっています。
拡張インポートジョブでは、内部でIM-共通マスタのデータをエクスポートし、アプリ共通マスタへインポートしています。
この時の設定ファイル(csv エクスポートとcsv インポート)の内容は、IM-共通マスタの標準インポートの設定ファイルと同じです。
設定ファイルの配置場所とファイル名は以下の通りです。

設定ファイルの配置場所	%PUBLIC_STORAGE%/im_master/config/altsync
エクスポート設定ファイル	oneterm_export_config.xml
インポート設定ファイル	oneterm_import_config.xml

エクスポート設定ファイル

エクスポート設定ファイル(oneterm_export_config.xml)は、ターゲットファイル、基準日と文字コードを必要に応じて設定します。
各項目は以下のように設定してください。

項目名	タグ名	説明
処理名	name	任意の値を設定してください。
フォーマット	format	「csv」を指定してください。
ターゲットファイル	file	type にはuser、department、inclusion、post、attach-user、attach-item を指定してください。 また、インポート設定ファイルのターゲットファイルとあわせてください。 詳細は「IM-共通マスタインポート・エクスポート仕様書」の「6.2.3 CSV でのデータファイル指定方法」を参照してください。
基準日	date	どの期間のデータを同期するかを決定するための基準日を指定します。 省略した場合、現在日で同期します。
文字コード	encoding	インポート設定ファイルの文字コードとあわせてください。

通常の運用では、基準日を変更する程度になります。
デフォルトの設定は以下です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<app-master-export>
 <user-export>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="user">im_master/temp/altsync/user.csv</file>
 </user-export>

 <company-export>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="department">im_master/temp/altsync/department.csv</file>
  <file type="inclusion">im_master/temp/altsync/inclusion.csv</file>
  <file type="post">im_master/temp/altsync/post.csv</file>
  <file type="attach-user">im_master/temp/altsync/attach-user.csv</file>
  <file type="attach-item">im_master/temp/altsync/attach-item.csv</file>
 </company-export>
</app-master-export>
```

インポート設定ファイル

インポート設定ファイル(oneterm_import_config.xml)は、ターゲットファイル、文字コードを必要に応じて設定します。
各項目は以下のように設定してください。

項目名	タグ名	説明
処理名	name	任意の値を設定してください。
フォーマット	format	「csv」を指定してください。
ターゲットファイル	file	type にはuser、department、inclusion、post、attach-user、attach-item を指定してください。 また、エクスポート設定ファイルのターゲットファイルとあわせてください。 詳細は「IM-共通マスタインポート・エクスポート仕様書」の「6.2.3 CSV でのデータファイル指定方法」を参照してください。
開始日	start-date	使用しません。
終了日	end-date	使用しません。
文字コード	encoding	エクスポート設定ファイルの文字コードとあわせてください。

通常の運用では、このままで使用できます。
デフォルトの設定は以下です。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<app-master-import>
 <user-import>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="user">im_master/temp/altsync/user.csv</file>
 </user-import>

 <company-import>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="department">im_master/temp/altsync/department.csv</file>
  <file type="inclusion">im_master/temp/altsync/inclusion.csv</file>
  <file type="post">im_master/temp/altsync/post.csv</file>
  <file type="attach-user">im_master/temp/altsync/attach-user.csv</file>
  <file type="attach-item">im_master/temp/altsync/attach-item.csv</file>
 </company-import>
</app-master-import>
```

一部のエンティティのみ同期する例

ここでは、IM-共通マスタで所属のみを変更した場合に、全て同期するのではなく所属のみ同期しようとする場合を例にあげて説明します。
特定のエンティティのみを同期するには、エクスポート設定ファイル、インポート設定ファイルのfile の項目にそのエンティティのみを指定します。
ここでは所属のみを出力するので、user-export, user-import は記述せず、company-export, company-import のfileにはattach-user のみを指定します。

以下は所属のみを同期する場合の設定ファイルの例です。

エクスポート設定ファイル(oneterm_export_config.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<app-master-export>
 <company-export>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="attach-user">im_master/temp/altsync/attach-user.csv</file>
 </company-export>
</app-master-export>
```

インポート設定ファイル(oneterm_import_config.xml)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<app-master-import>
 <company-import>
  <format>csv</format>
  <encoding>UTF-8</encoding>
  <name>name</name>
  <file type="attach-user">im_master/temp/altsync/attach-user.csv</file>
 </company-import>
</app-master-import>
```

インポートの実行

1. テナント管理者でログインします。
2. 「サイトマップ」-「テナント管理」-「ジョブネット設定」をクリックします。
3. ジョブネット一覧より「ユーザ拡張同期インポート II型」および「会社・組織拡張同期インポート II型」を選択して、ジョブを実行します。
   ユーザと会社組織の両方を同期させる場合には,「ユーザ拡張同期インポート II型」、「会社・組織拡張同期インポート II型」の順に実行してください。

制限事項

このインポートを実行するには、以下の制限があります。
インポートを実行する前に、以下の制限に違反していないことを確認してください。

アプリケーション共通マスタが一期間の状態になっていること

アプリケーション共通マスタが一期間の状態でインポートを行ってください。
一期間の状態にするためには、初期化状態生成ジョブを実行してください。初期化状態生成ジョブについては、「*初期状態生成*」を参照してください。

関連するエンティティの復帰処理を行いません

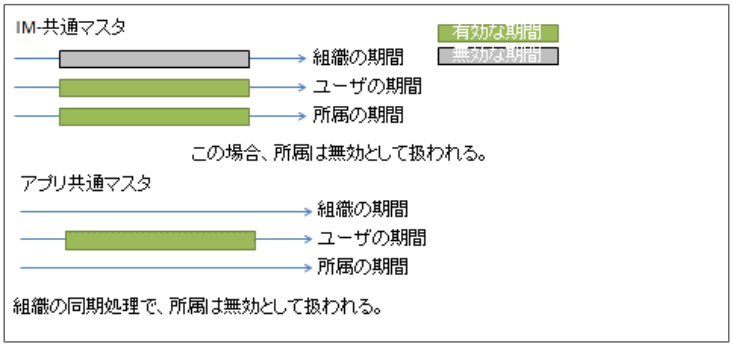
拡張インポートでは関連するエンティティの復帰処理を行わないので、拡張インポートのエクスポート、インポート設定ファイルにはユーザ、組織、内包、役職、所属、分類所属を設定してください。
組織のみを設定するなど、一部のエンティティのみを同期させる場合は、該当エンティティが無効化から有効化の状態になることが無いことを確認してください。
無効化から有効化の状態にしているエンティティがある場合は、全てのエンティティ(組織、内包、役職、所属、分類所属)を設定してください。
デフォルトではユーザ、組織、内包、役職、所属、分類所属が設定されています。

関連するエンティティの復帰処理について

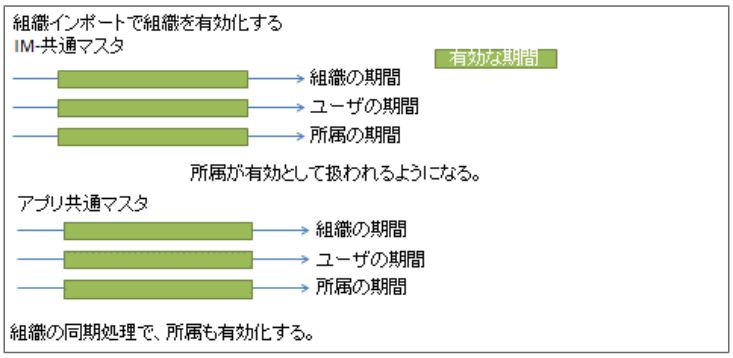
標準インポートでは、IM-共通マスタ上で、無効(論理削除状態)だったエンティティをインポートで有効化するとき、それに関連するエンティティも有効化しています。
以下の表では、対象となるエンティティを復帰させた場合、関連するエンティティを復帰させる処理を行うかどうかを、標準インポートでの同期処理と拡張インポートの同期のそれぞれに対して表しています。

エンティティ	関連するエンティティ	標準同期処理	拡張インポートの同期処理
ユーザ	所属	復帰あり	復帰なし
組織(会社)	組織 内包 役職	復帰あり 復帰あり 復帰あり	復帰なし 復帰なし 復帰なし
組織	内包 所属	復帰あり 復帰あり	復帰なし 復帰なし
内包	なし	–	–
役職	所属(所属役職)	復帰あり	復帰あり
所属	所属役職	復帰あり	復帰あり

（例） 標準のインポートと同期処理における復帰
組織インポートで組織を有効化した場合、それに関連した所属も有効化して同期します。
標準のインポートの同期処理では、「インポート前の状態」に組織を有効化するインポートを行うと、「インポート前の後」の状態になります。
組織が有効になったことにより、所属が有効として扱われ、組織の同期と共に、所属も有効にして登録しています。



インポート前の状態

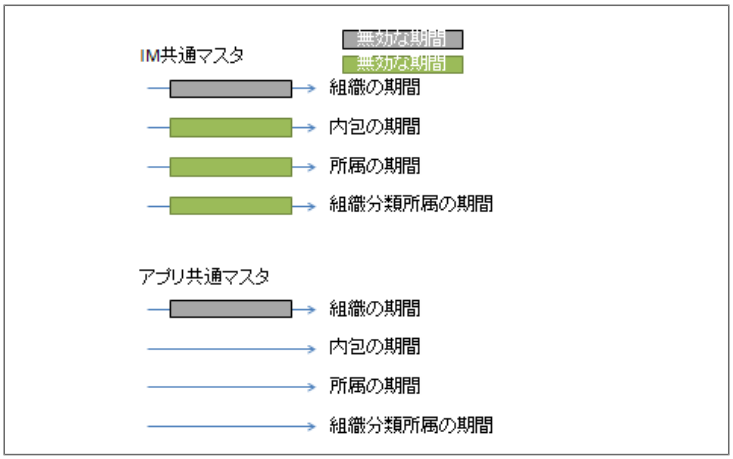


インポート後の状態

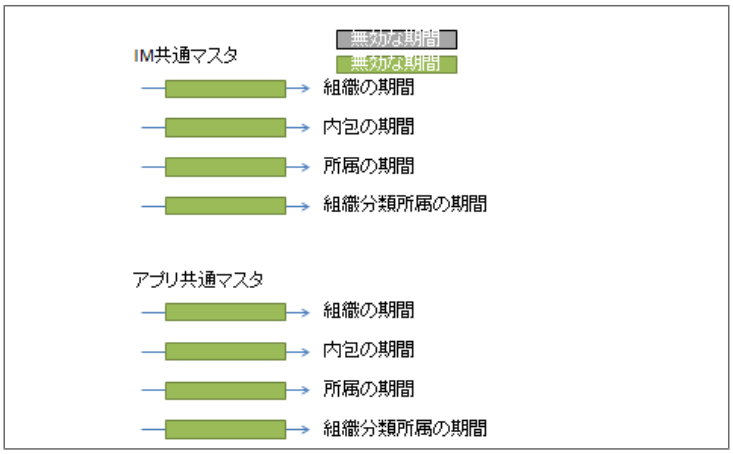
復帰処理への対応方法

拡張インポートでは、表5-1で「復帰なし」となっているエンティティを無効から有効にする場合、それに関連するエンティティは復帰しません(有効になりません)。
復帰処理の代替として、関連するエンティティのcsv データを用意してインポートする必要があります。

（例） 組織を有効にする場合
組織を有効にする場合、その組織に関連する内包と所属、組織分類所属のデータをcsv ファイルに追加して、同時にインポートします。
ここでは、「インポート前の状態」に組織を有効化のインポートを行い、「インポート後の状態」にするために用意するcsv データについて説明します。



インポート前の状態



インポート後の状態

組織を有効化すると、IM-共通マスタでは内包、所属と組織分類所属も有効化された状態になるので、アプリ共通マスタでも同じ状態にするために、対応する内包、所属と組織分類所属も同期の対象にさせます。
この場合は、組織だけを同期させるのではなく、内包、所属、組織分類所属も同期させてください。
エクスポート、インポート設定ファイルのターゲットファイルの部分には、組織だけでなく、内包、所属、組織分類所属も記述します。

（例） エクスポート、インポート設定ファイルのターゲットファイルに組織のみを記述している場合
組織だけの記述は以下のようになります。

```
<file type="department">im_master/temp/altsync/department.csv</file>
```

上記の記述から、組織だけでなく内包、所属、組織分類所属の記述に変更する場合は、以下のように記述します。

```
<file type="department">im_master/temp/altsync/department.csv</file>
<file type="inclusion">im_master/temp/altsync/inclusion.csv</file>
<file type="attach-user">im_master/temp/altsync/attach-user.csv</file>
<file type="attach-item">im_master/temp/altsync/attach-item.csv</file>
```